2015/2016シーズン

スキー場傷害報告書

平成28年2月1日～2月28日

全国スキー安全対策協議会

目　　次

はじめに……1
1.　協力スキー場および調査期間……2
2.　用具の分類……2
3.　受傷者数および集計・分析の対象……2
4.　スキーとスノーボードの受傷者割合……5
5.　用具別受傷者の割合……5
6.　リフト等の輸送人員……6
7.　受傷率……7
8.　スキー受傷率およびスノーボード受傷率……8
9.　受傷時間帯……12
10.　天候……12
11.　性別……13
12.　年齢……13
13.　技能……14
14.　傷害の部位と種類……15
15.　受傷原因……18
16.　受傷場所……20
17.　受傷時の行動……21
18.　傷害程度……22
19.　頭を強く打った疑い……22
20.　ヘルメットの着用状況……23
21.　受傷時のスピード……23
22.　保険の加入状況……24
23.　雪面状況……25
24.　雪質……25

資料 1　2015/2016 スキーシーズンのゲレンデ等における死亡事故……26
資料 2　2015/2016 スキーシーズン死亡者の内訳及び原因……27
資料 3　スノースポーツ死亡者数の 10 年間の推移……27
資料 4　2016 年 2 月スキー場傷害調査用紙……28
資料 5　全国統一スキー場標識マーク等色刷一覧表……29

はじめに

このスキー場傷害報告書は，毎年全国スキー安全対策協議会より協力を依頼したスキー場の 2 月中のデータをもとに作成しています。

2015/2016 シーズンは，前例にない暖冬の影響で全国各地のスキー場営業期間が短くなりました。しかし，本調査は例年通り 47 スキー場の協力を得て実施することができました。各スキー場では，リフト・ゴンドラ等の新設・運休・廃止等シーズンによって状況が異なることがあるので，調査対象が同じであっても，その結果が必ずしも同じとは言えないかもしれません。しかし，そのような状況を考慮しても，経年的統計データの収集・比較には大切な意味があると考えられます。

先シーズンと比較して，今シーズンの索道輸送延べ人員は 1.5%減少しました。しかし，全受傷者数は 3.5%（108 人）増加しました。2015/2016 シーズンの傷害発生率は，スキー・スノーボード共そろって増加しました。昨年，この 10 年間で最低を記録したスノーボードの傷害発生率は，今年は増加に転じました。スキー場における死亡事故は 8 件でした。

本調査の目的はスキー場の傷害調査であることから，スキー場より報告された調査用紙に含まれる傷害以外の疾病については，傷害発生率などの分析に影響するので集計から除いています。その結果，傷害報告数と，本報告書の傷害件数が異なる場合があることをご了承願います。なお，調査項目については，記入に要する労力や経費削減の観点から引き続き精査しております。

本報告書が，スキー場のリスクマネジメント・スキー学校等における安全指導の参考資料等として活用されることを願っています。

本調査にご協力いただいた，受傷したスキーヤー・スノーボーダーの方々，スキーパトロール隊や診療所等スキー場関係者の皆様，またデータ入力に協力してくれた学生諸氏に厚くお礼申し上げます。

平成 28 年 7 月

全国スキー安全対策協議会
調査委員　富　樫　泰　一

1. 協力スキー場および調査期間

2016 年 2 月 1 日から 2 月 29 日の 1 ヶ月間, 全国 47 スキー場から報告があったデータをもとに集計・分析しました。協力スキー場及び受傷者数については表 1，表 2 に示しました。

なお，志賀高原スキー場については，志賀高原エリアのスキー場を総合したものですが，シーズンによって協力スキー場が異なる場合があります。

2. 用具の分類

用具は，2011/2012 シーズンの調査用紙より次のように分類しました。

1) スキー
   - ① アルペンスキー（従来のノーマルスキー，カービングスキー，ファンスキーやファットスキー，モーグルスキー，オールランドスキー等を含む）
   - ② スキーボード（スキー板の長さ 100cm 未満のもの）
   - ③ テレマークスキー
   - ④ クロスカントリースキー
   - ⑤ その他のスキー
2) スノーボード
   - ① フリースタイルスノーボード
   - ② アルペンスノーボード
   - ③ その他のスノーボード
3) ソリ
   - ① 子供用ソリ
   - ② 腰掛ソリ
   - ③ 立ち乗りソリ（スノースクート等）
   - ④ その他のソリ
4) その他

3. 受傷者数および集計･分析の対象

47 スキー場から送付されてきた調査票のうち, 持病や体調不良など傷害ではないと思われるものを除き 3,175 件を分析の対象としました。その内訳は，スキーの受傷者数 1,286 件，スノーボードの受傷者数 1,865 件，ソリ 13 件，その他 17 件でした。

なお，各項目における集計・分析は原則として無記入（欠損値）を除いて行いました。

表 1. 用具別受傷者数（スキー）

（F）　　（人）　（G）

番号	スキー場	受傷者合計	スキー					
			アルペンスキー	スキーボード（100cm未満）	テレマークスキー	クロスカントリースキー	その他のスキー	スキー小計
1	ニセコグランヒラフ	76	41	0	0	0	0	41
2	朝里川温泉スキー場	9	7	0	0	0	0	7
3	サッポロテイネスキー場	22	17	0	0	0	0	17
4	札幌国際スキー場	34	13	0	0	0	0	13
5	ルスツリゾートスキー場	128	66	0	0	0	1	67
6	富良野スキー場	31	24	0	0	0	0	24
7	大鰐温泉スキー場	16	15	0	0	0	0	15
8	安比高原スキー場	73	46	1	0	0	0	47
9	みやぎ蔵王白石スキー場	6	2	0	0	0	0	2
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	29	9	0	0	0	0	9
11	猪苗代スキー場	35	14	1	0	0	0	14
12	裏磐梯猫魔スキー場	5	2	0	0	0	0	2
13	アルツ磐梯スキー場	53	12	1	0	0	0	13
14	会津高原たかつえスキー場	28	8	1	0	0	0	9
15	たざわ湖スキー場	22	16	0	0	0	0	17
16	蔵王温泉スキー場	109	67	1	0	0	1	69
17	苗場スキー場	80	30	0	0	0	0	30
18	石打丸山スキー場	132	11	0	0	0	30	42
19	舞子スノーリゾート	94	19	0	0	0	1	20
20	上越国際スキー場	120	37	1	0	0	0	38
21	黒姫高原スノーパーク	19	11	0	1	0	0	12
22	斑尾高原スキー場	144	23	0	0	0	0	23
23	野沢温泉スキー場	128	53	0	1	1	1	56
24	志賀高原スキー場	190	135	3	0	0	2	140
25	白馬五竜スキー場	158	50	1	0	0	0	51
26	白馬八方尾根スキー場	226	147	1	0	0	0	148
27	白馬岩岳スノーフィールド	104	46	0	0	0	2	48
28	栂池高原スキー場	129	32	0	0	0	0	32
29	立山山麓スキー場	27	13	1	0	0	2	16
30	白山一里野温泉スキー場	25	14	0	0	0	0	14
31	草津国際スキー場	23	12	0	0	0	0	12
32	スノーパーク尾瀬戸倉	19	7	0	0	0	1	8
33	万座温泉スキー場	23	11	0	0	0	0	11
34	ハンターマウンテン塩原	109	18	0	0	0	0	18
35	ダイナランド	158	21	0	0	0	2	23
36	SKI JAM 勝山スキー場	112	30	1	0	0	0	32
37	箱館山スキー場	4	0	0	0	0	0	0
38	ハチ北高原スキー場	78	20	1	0	0	0	21
39	びわ湖バレイスキー場	86	26	2	0	0	3	31
40	奥神鍋スキー場	7	2	0	0	0	1	3
41	ハチ高原スキー場	50	26	0	0	0	0	26
42	だいせんホワイトリゾート	82	33	0	0	0	2	36
43	芸北国際スキー場	39	11	0	0	0	0	11
44	恐羅漢スノーパーク	38	6	1	0	0	0	7
45	瑞穂ハイランド	39	2	0	0	0	1	3
46	ユートピアサイオト	32	3	0	0	0	0	3
47	久万スキーランド	24	5	0	0	0	0	5
	合　計	3,175	1,213	17	2	1	50	1,286

表 2. 用具別受傷者数（スノーボード・ソリ・その他）

(F)　　(H)　　(I=ソリ小計+その他)（人）

番号	スキー場	受傷者合計	スノーボード				ソリ					その他
			フリースタイルスノーボード	アルペンスノーボード	その他のスノーボード	スノーボード小計	子ども用ソリ	腰掛ソリ	立ち乗りソリ	その他のソリ	ソリ小計	
1	ニセコグランヒラフ	76	35	0	0	35	0	0	0	0	0	0
2	朝里川温泉スキー場	9	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
3	サッポロテイネスキー場	22	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0
4	札幌国際スキー場	34	21	0	0	21	0	0	0	0	0	0
5	ルスツリゾートスキー場	128	61	0	0	61	0	0	0	0	0	0
6	富良野スキー場	31	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0
7	大鰐温泉スキー場	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
8	安比高原スキー場	73	26	0	0	26	0	0	0	0	0	0
9	みやぎ蔵王白石スキー場	6	3	0	1	4	0	0	0	0	0	0
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	29	20	0	0	20	0	0	0	0	0	0
11	猪苗代スキー場	35	19	0	0	19	0	0	0	0	0	1
12	裏磐梯猫魔スキー場	5	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
13	アルツ磐梯スキー場	53	39	0	0	39	1	0	0	0	1	0
14	会津高原たかつえスキー場	28	19	0	0	19	0	0	0	0	0	0
15	たざわ湖スキー場	22	5	0	0	5	0	0	0	0	0	1
16	蔵王温泉スキー場	109	40	0	0	40	0	0	0	0	0	0
17	苗場スキー場	80	50	0	0	50	0	0	0	0	0	0
18	石打丸山スキー場	132	66	0	24	90	1	0	0	0	1	0
19	舞子スノーリゾート	94	73	1	0	74	0	0	0	0	0	0
20	上越国際スキー場	120	80	0	0	80	0	0	0	0	0	2
21	黒姫高原スノーパーク	19	6	0	0	6	0	0	0	0	0	1
22	斑尾高原スキー場	144	121	0	0	121	0	0	0	0	0	0
23	野沢温泉スキー場	128	67	3	0	70	0	0	1	0	1	1
24	志賀高原スキー場	190	49	0	0	49	1	0	0	0	1	0
25	白馬五竜スキー場	158	102	1	0	103	1	0	0	2	3	1
26	白馬八方尾根スキー場	226	78	0	0	78	0	0	0	0	0	0
27	白馬岩岳スノーフィールド	104	56	0	0	56	0	0	0	0	0	0
28	栂池高原スキー場	129	92	4	0	96	1	0	0	0	1	0
29	立山山麓スキー場	27	8	0	0	8	1	0	1	0	2	1
30	白山一里野温泉スキー場	25	10	1	0	11	0	0	0	0	0	0
31	草津国際スキー場	23	10	1	0	11	0	0	0	0	0	0
32	スノーパーク尾瀬戸倉	19	11	0	0	11	0	0	0	0	0	0
33	万座温泉スキー場	23	12	0	0	12	0	0	0	0	0	0
34	ハンターマウンテン塩原	109	87	1	0	88	1	0	0	0	1	2
35	ダイナランド	158	135	0	0	135	0	0	0	0	0	0
36	SKI JAM 勝山スキー場	112	80	0	0	80	0	0	0	0	0	1
37	箱館山スキー場	4	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0
38	ハチ北高原スキー場	78	56	1	0	57	0	0	0	0	0	0
39	びわ湖バレイスキー場	86	53	1	0	54	0	0	0	0	0	1
40	奥神鍋スキー場	7	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0
41	ハチ高原スキー場	50	22	0	0	22	0	0	0	0	0	2
42	だいせんホワイトリゾート	82	45	0	0	45	1	0	0	0	1	1
43	芸北国際スキー場	39	28	0	0	28	0	0	0	0	0	0
44	恐羅漢スノーパーク	38	29	1	1	31	0	0	0	0	0	0
45	瑞穂ハイランド	39	36	0	0	36	0	0	0	0	0	0
46	ユートピアサイオト	32	26	2	0	28	0	1	0	0	1	0
47	久万スキーランド	24	17	1	0	18	0	0	0	0	0	1
	合　計	3,175	1,818	18	26	1,862	8	1	2	2	13	17

4．スキーとスノーボードの受傷者割合

図 1 は過去 5 年間のスキー及びスノーボードの受傷者の割合を示したものです（ソリ等その他を除いて集計）。

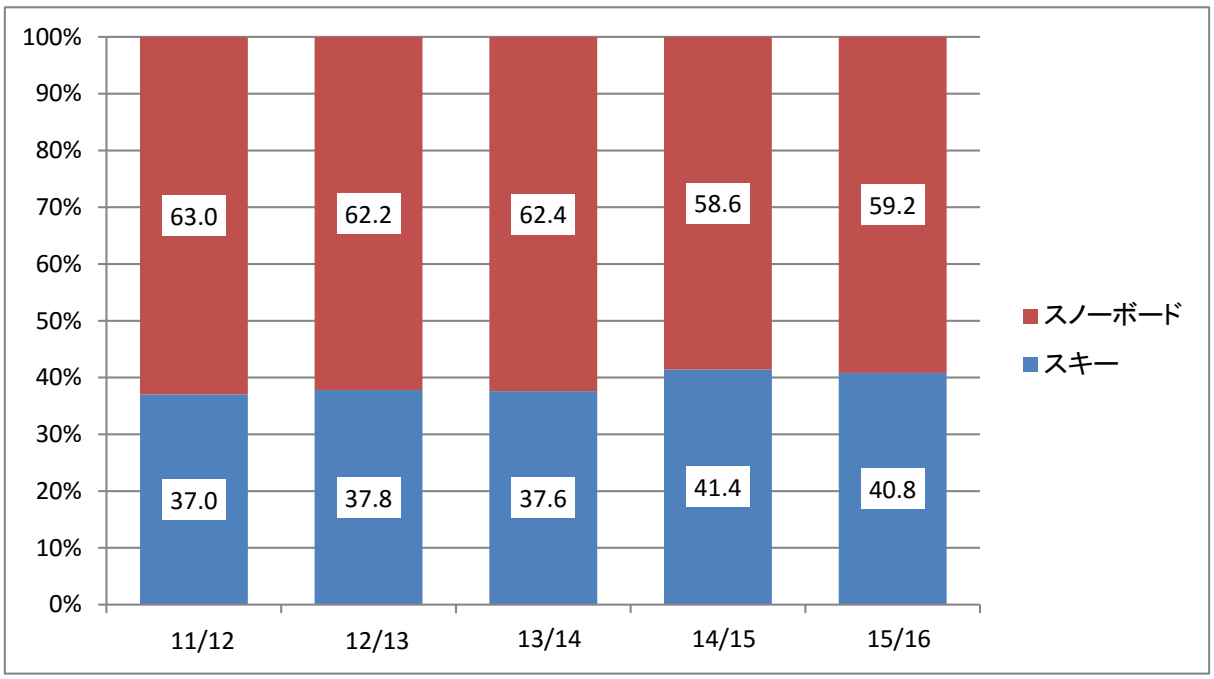


図 1．スキーとスノーボードの受傷者割合の推移

5．用具別受傷者の割合

図 2 は受傷者の使用用具の割合です。昨シーズンと比較すると，アルペンスキーが 2.9 ポイント増加，フリースタイルスノーボードが 3.7 ポイント減少しています。

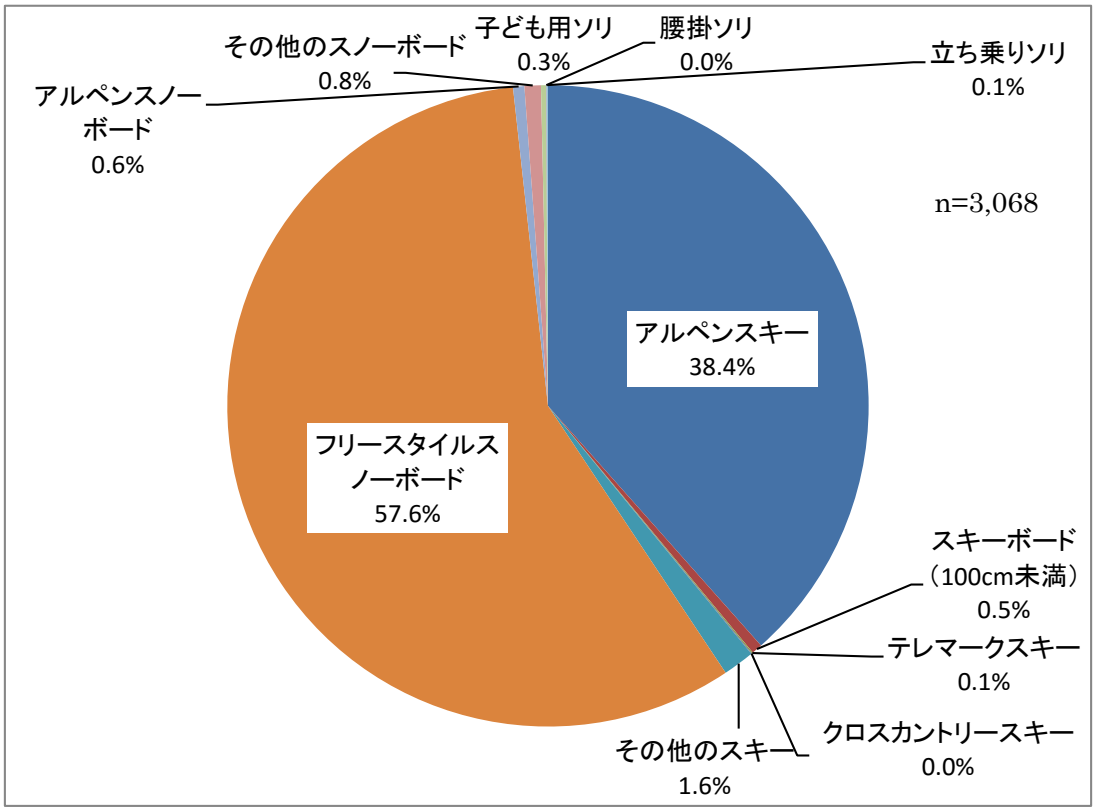


図 2．用具別受傷者の割合

表 3 は，用具別受傷者の推移を表したものです。過去 5 年間の推移を見てみました。今シーズンの受傷者数は昨シーズンより 3.5 ポイント増加しました。

表 3.　用具別受傷者数の推移（人）

調査年	スキー					スノーボード			ソリ その他	計
	アルペン	スキーボード	テレマーク	クロカン	その他	フリースタイル	アルペン	その他		
2012年	1,041	24	3	0	16	1,833	12	1	3	2,965
	35.1%	0.8%	0.1%	0.0%	0.5%	61.8%	0.4%	0.0%	0.1%	100.0%
2013年	1,103	19	4	3	42	1,869	10	38	22	3,110
	35.5%	0.6%	0.1%	0.1%	1.4%	60.1%	0.3%	1.2%	0.7%	100.0%
2014年	1,150	33	6	3	16	1,925	16	9	18	3,192
	36.0%	1.0%	0.2%	0.1%	0.5%	60.3%	0.5%	0.3%	0.6%	100.0%
2015年	1,201	24	2	2	37	1,747	16	26	13	3,068
	39.1%	0.8%	0.1%	0.1%	1.2%	56.9%	0.5%	0.8%	0.4%	100.0%
2016年	1,213	17	2	1	50	1,818	18	26	30	3,175
	38.2%	0.5%	0.1%	0.0%	1.6%	57.3%	0.6%	0.8%	0.9%	100.0%

6. リフト等の輸送人員

スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員は，各スキー場から報告があった 2 月の輸送延べ人員とスキーヤーとスノーボーダーの入り込みの比率から推計したものです。

表 4 はスキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の推移です。2016 年 2 月の輸送延べ人員は，前年度と比べて 1.55 ポイント減少しました。スキーヤーは微増（0.71 ポイント増）していましたが，スノーボーダーの 4.14 ポイント減少が目立ちました。

表４．　スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の推移（人）

調査年（2月）	スキーヤー	対前年比	スノーボーダー	対前年比	総輸送人員	対前年比
2012年	16,225,318	−13.90%	14,130,623	−10.40%	30,355,941	−12.20%
2013年	15,191,107	−6.37%	14,257,814	0.90%	29,448,922	−2.99%
2014年	15,090,114	−0.66%	13,877,464	−2.67%	28,977,199	−1.60%
2015年	16,904,535	12.02%	14,706,216	5.97%	31,610,751	9.09%
2016年	17,023,802	0.71%	14,097,941	−4.14%	31,121,743	−1.55%

※ 調査年により協力スキー場数に変動があります。

図 3 はスキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の割合です。今シーズンは過去 5 年間でスノーボーダーの推計輸送人員の割合が最も低く，スキーヤーの推計輸送人員の割合が最も高くなっています。

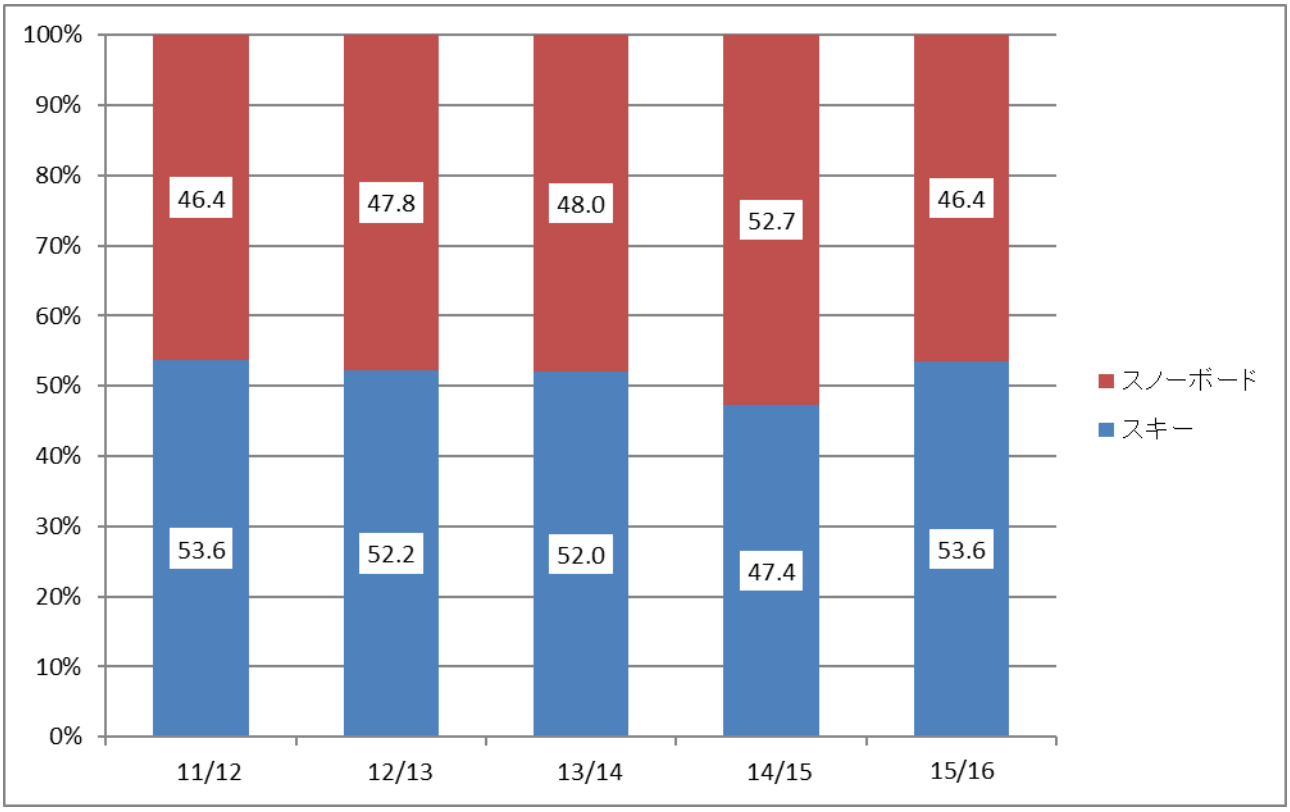


図 3. スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の割合の推移

7．受傷率

過去 10 シーズンの受傷率の推移を図 4 に示しました。昨シーズンは過去 10 年間で最低を記録したものの，今シーズンは 0.0005 ポイント増加しました。

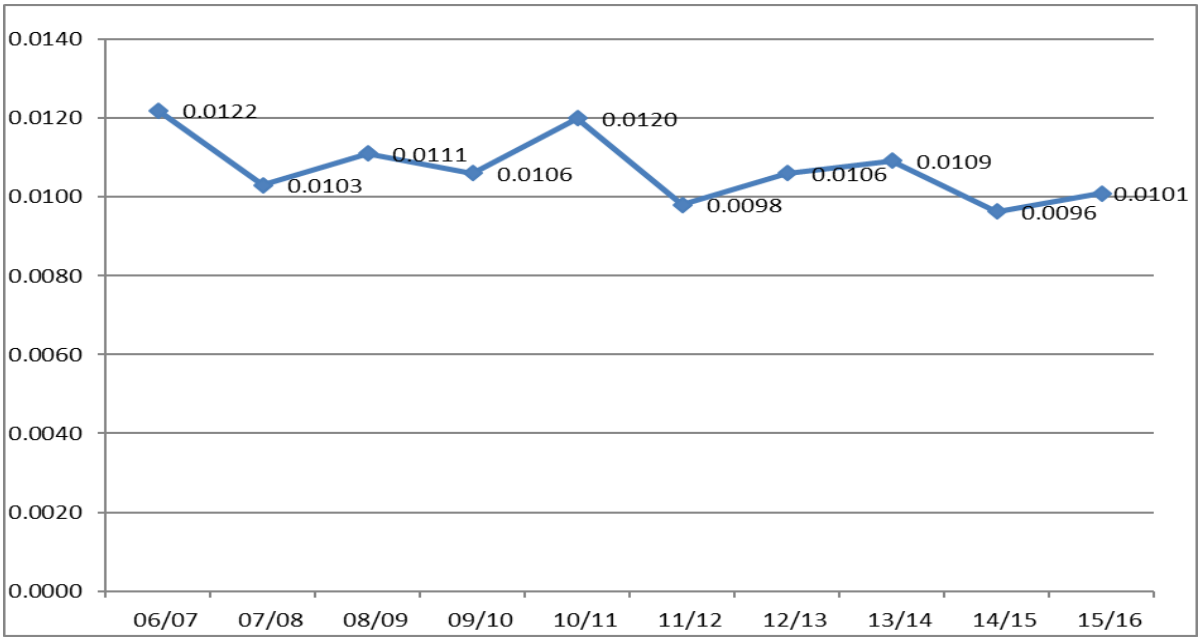


図 4. 最近 10 年間の受傷率の推移

8. スキー受傷率およびスノーボード受傷率

図 5 に過去 10 シーズンのスキー受傷率とスノーボード受傷率の推移を示しました。11/12 シーズンはスキー・スノーボードの受傷率ともに過去 10 シーズンで最も低い値を示しましたが，その後 2 シーズン連続で増加しました。今シーズンはスキー・スノーボード共に昨年度よりやや増加しました。

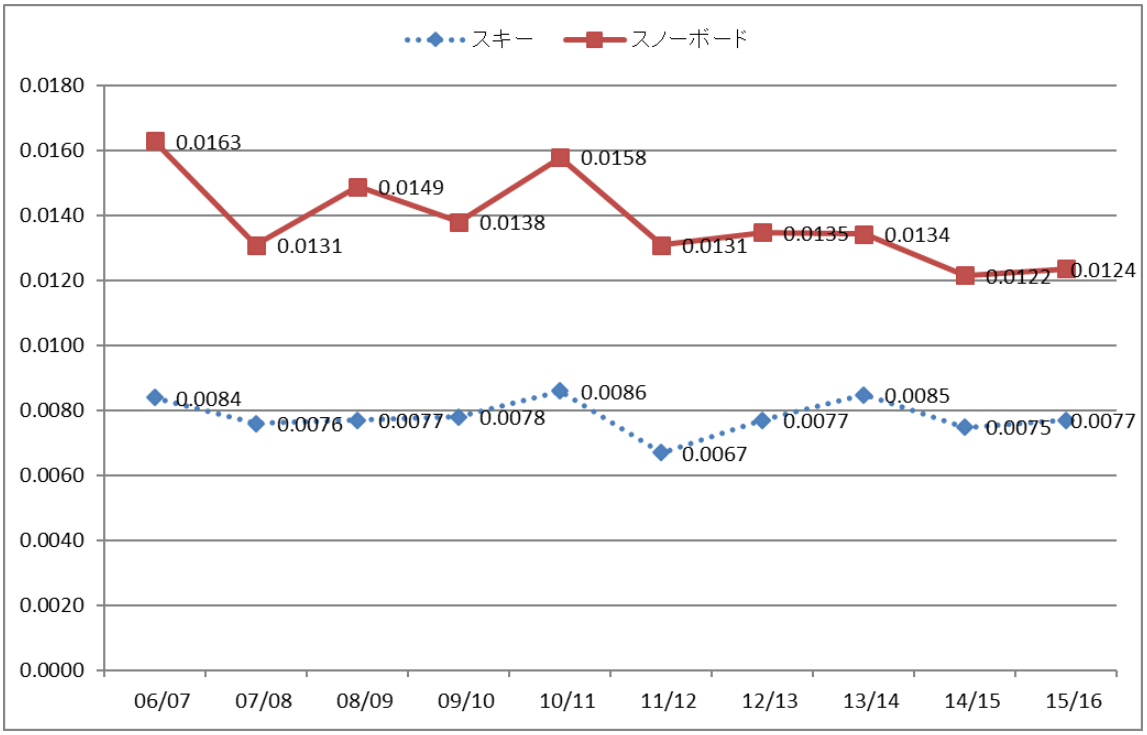


図 5. スキー及びスノーボード受傷率の推移

本報告書では，受傷率を輸送延べ人員に対する受傷者数の割合として計算しています。

例えば受傷率 0.010%とは，リフト･ゴンドラ等の輸送人員 1 万人あたり受傷者 1 人を指し，10 万人あたりでは 10 人，100 万人あたりでは 100 人となります。

スキー受傷率は，スキーヤー推計輸送人員に対するスキー受傷者数の割合，スノーボード受傷率は，スノーボーダー推計輸送人員に対するスノーボード受傷者数の割合を示したものです。

なお，提出された集計表に書かれた傷害件数と調査用紙（個票）の数が一致しないスキー場やケガ以外の疾病などが含まれている場合があるので，受傷率の計算は可能な限り実際の傷害件数を採用しました。したがって，スキー場から報告された傷害件数と本報告書の傷害件数とが異なる場合がありますのでご了承ください。

表 5 は輸送人員，入り込み比率，及びスキー・スノーボード別推計輸送人員です。

各スキー場の受傷者数と受傷率は，表 6 に示しました。受傷率は，総輸送人員に対する受傷者数の割合を示したものです。

表 5. 輸送人員，入り込み比率及びスキー・スノーボード別推計輸送人員

番号	スキー場	輸送人員（人）2016年2月 (A)	入り込み比率（%） (B) スキーヤー	入り込み比率（%） (C) ボーダー	推計輸送人員（人） (D=AxB) スキーヤー	推計輸送人員（人） (E=AxC) ボーダー
1	ニセコグランヒラフ	1,309,221	60	40	785,533	523,688
2	朝里川温泉スキー場	241,184	80	20	192,947	48,237
3	サッポロテイネスキー場	741,714	60	40	445,028	296,686
4	札幌国際スキー場	333,656	55	45	183,511	150,145
5	ルスツリゾートスキー場	1,086,950	54	46	586,953	499,997
6	富良野スキー場	579,346	84	16	487,230	92,116
7	大鰐温泉スキー場	120,931	93	7	112,708	8,223
8	安比高原スキー場	525,087	76	24	399,591	125,496
9	みやぎ蔵王白石スキー場	101,850	60	40	61,110	40,740
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	227,091	50	50	113,546	113,546
11	猪苗代スキー場	591,000	40	60	236,400	354,600
12	裏磐梯猫魔スキー場	183,069	40	60	73,228	109,841
13	アルツ磐梯スキー場	514,192	60	40	308,515	205,677
14	会津高原たかつえスキー場	466,665	60	40	279,999	186,666
15	たざわ湖スキー場	241,000	74	26	178,340	62,660
16	蔵王温泉スキー場	1,298,000	67	33	868,362	429,638
17	苗場スキー場	1,118,000	60	40	670,800	447,200
18	石打丸山スキー場	1,205,814	50	50	602,907	602,907
19	舞子スノーリゾート	1,021,908	21	79	217,666	804,242
20	上越国際スキー場	1,179,091	60	40	707,455	471,636
21	黒姫高原スノーパーク	246,880	65	35	160,472	86,408
22	斑尾高原スキー場	522,854	55	45	287,570	235,284
23	野沢温泉スキー場	1,502,942	65	35	976,912	526,030
24	志賀高原スキー場	2,041,347	78	22	1,592,251	449,096
25	白馬五竜スキー場	860,987	30	70	258,296	602,691
26	白馬八方尾根スキー場	1,815,001	70	30	1,270,501	544,500
27	白馬岩岳スノーフィールド	441,919	43	57	190,025	251,894
28	栂池高原スキー場	849,172	40	60	339,669	509,503
29	立山山麓スキー場	291,152	50	50	145,576	145,576
30	白山一里野温泉スキー場	265,471	60	40	159,283	106,188
31	草津国際スキー場	507,624	64	36	324,879	182,745
32	スノーパーク尾瀬戸倉	266,539	50	50	133,270	133,270
33	万座温泉スキー場	276,405	71	29	197,077	79,328
34	ハンターマウンテン塩原	598,150	30	70	179,445	418,705
35	ダイナランド	732,757	32	68	234,482	498,275
36	SKI JAM 勝山スキー場	1,480,327	44	56	654,305	826,022
37	箱館山スキー場	321,387	67	33	215,329	106,058
38	ハチ北高原スキー場	832,195	38	62	316,234	515,961
39	びわ湖バレイスキー場	582,275	35	65	203,796	378,479
40	奥神鍋スキー場	319,774	40	60	127,910	191,864
41	ハチ高原スキー場	700,000	50	50	350,000	350,000
42	だいせんホワイトリゾート	910,272	66	34	600,780	309,492
43	芸北国際スキー場	363,942	40	60	145,577	218,365
44	恐羅漢スノーパーク	360,450	40	60	144,180	216,270
45	瑞穂ハイランド	515,035	32	68	164,811	350,224
46	ユートピアサイオト	284,000	40	60	113,600	170,400
47	久万スキーランド	147,117	18	83	25,745	121,372
	合　　計	31,121,743	54	46	17,023,802	14,097,941

表 6. 受傷率

番号	スキー場	(F) 受傷者数(人) 合計	(G) スキーヤー	(H) ボーダー	(I) その他	(F/Ax100) 受傷率(%) 合計	(G/Dx100) スキーヤー	(H/Ex100) ボーダー
1	ニセコグランヒラフ	76	41	35	0	0.0058	0.0052	0.0067
2	朝里川温泉スキー場	9	7	2	0	0.0037	0.0036	0.0041
3	サッポロテイネスキー場	22	17	5	0	0.0030	0.0038	0.0017
4	札幌国際スキー場	34	13	21	0	0.0102	0.0071	0.0140
5	ルスツリゾートスキー場	128	67	61	0	0.0118	0.0114	0.0122
6	富良野スキー場	31	24	7	0	0.0054	0.0049	0.0076
7	大鰐温泉スキー場	16	15	0	1	0.0132	0.0133	0.0000
8	安比高原スキー場	73	47	26	0	0.0139	0.0118	0.0207
9	みやぎ蔵王白石スキー場	6	2	4	0	0.0059	0.0033	0.0098
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	29	9	20	0	0.0128	0.0079	0.0176
11	猪苗代スキー場	35	14	20	1	0.0059	0.0059	0.0056
12	裏磐梯猫魔スキー場	5	2	3	0	0.0027	0.0027	0.0027
13	アルツ磐梯スキー場	53	13	39	1	0.0103	0.0042	0.0190
14	会津高原たかつえスキー場	28	9	19	0	0.0060	0.0032	0.0102
15	たざわ湖スキー場	22	17	5	0	0.0091	0.0095	0.0080
16	蔵王温泉スキー場	109	69	40	0	0.0084	0.0079	0.0093
17	苗場スキー場	80	30	50	0	0.0072	0.0045	0.0112
18	石打丸山スキー場	132	42	90	0	0.0109	0.0070	0.0149
19	舞子スノーリゾート	94	20	74	0	0.0092	0.0092	0.0092
20	上越国際スキー場	120	38	80	2	0.0102	0.0054	0.0170
21	黒姫高原スノーパーク	19	12	6	1	0.0077	0.0075	0.0069
22	斑尾高原スキー場	144	23	121	0	0.0275	0.0080	0.0514
23	野沢温泉スキー場	128	56	70	2	0.0085	0.0057	0.0133
24	志賀高原スキー場	190	140	50	0	0.0093	0.0088	0.0111
25	白馬五竜スキー場	158	51	103	4	0.0184	0.0197	0.0171
26	白馬八方尾根スキー場	226	148	78	0	0.0125	0.0116	0.0143
27	白馬岩岳スノーフィールド	104	48	56	0	0.0235	0.0253	0.0222
28	栂池高原スキー場	129	32	96	1	0.0152	0.0094	0.0188
29	立山山麓スキー場	27	16	8	3	0.0093	0.0110	0.0055
30	白山一里野温泉スキー場	25	14	11	0	0.0094	0.0088	0.0104
31	草津国際スキー場	23	12	11	0	0.0045	0.0037	0.0060
32	スノーパーク尾瀬戸倉	19	8	11	0	0.0071	0.0060	0.0083
33	万座温泉スキー場	23	11	12	0	0.0083	0.0056	0.0151
34	ハンターマウンテン塩原	109	18	88	3	0.0182	0.0100	0.0210
35	ダイナランド	158	23	135	0	0.0216	0.0098	0.0271
36	SKI JAM 勝山スキー場	112	32	80	0	0.0076	0.0049	0.0097
37	箱館山スキー場	4	0	4	0	0.0012	0.0000	0.0038
38	ハチ北高原スキー場	78	21	57	0	0.0094	0.0066	0.0110
39	びわ湖バレイスキー場	86	31	54	1	0.0148	0.0152	0.0143
40	奥神鍋スキー場	7	3	4	0	0.0022	0.0023	0.0021
41	ハチ高原スキー場	50	26	22	2	0.0071	0.0074	0.0063
42	だいせんホワイトリゾート	82	36	45	1	0.0090	0.0060	0.0145
43	芸北国際スキー場	39	11	28	0	0.0107	0.0076	0.0128
44	恐羅漢スノーパーク	38	7	31	0	0.0105	0.0049	0.0143
45	瑞穂ハイランド	39	3	36	0	0.0076	0.0018	0.0103
46	ユートピアサイオト	32	3	29	0	0.0113	0.0026	0.0170
47	久万スキーランド	24	5	18	1	0.0163	0.0194	0.0148
	合　　計	3,175	1,286	1,865	24	0.0101	0.0077	0.0124

表 7. スキーヤー・スノーボーダーの入り込み比率の推移

（スキーヤーの比率：スノーボーダーの比率）

番号	スキー場	2012年2月			2013年2月			2014年2月			2015年2月			2016年2月		
1	ニセコグランヒラフ	55	:	45	55	:	45	60	:	40	60	:	40	60	:	40
2	朝里川温泉スキー場	65	:	35	65	:	35	80	:	20	60	:	40	80	:	20
3	サッポロテイネスキー場	60	:	40	60	:	40	60	:	40	60	:	40	60	:	40
4	札幌国際スキー場	52	:	48	55	:	45	52	:	48	55	:	45	55	:	45
5	ルスツリゾートスキー場	60	:	40	73	:	28	41	:	59	65	:	35	54	:	46
6	富良野スキー場	77	:	23	80	:	20	80	:	20	81	:	19	84	:	16
7	大鰐温泉スキー場	91	:	9	89	:	11	90	:	10	88	:	12	93	:	7
8	安比高原スキー場	69	:	31	71	:	29	71	:	29	73	:	27	76	:	24
9	みやぎ蔵王白石スキー場	60	:	40	65	:	35	60	:	40	60	:	40	60	:	40
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	40	:	60	50	:	50	50	:	50	50	:	50	50	:	50
11	猪苗代スキー場	20	:	80	50	:	50	50	:	50	50	:	50	40	:	60
12	裏磐梯猫魔スキー場	60	:	40	50	:	50	40	:	60	40	:	60	40	:	60
13	アルツ磐梯スキー場	40	:	60	40	:	60	40	:	60	40	:	60	60	:	40
14	会津高原たかつえスキー場	40	:	60	60	:	40	60	:	40	50	:	50	60	:	40
15	たざわ湖スキー場	60	:	40	70	:	30	74	:	26	72	:	28	74	:	26
16	蔵王温泉スキー場	71	:	29		:		70	:	30	67	:	33	67	:	33
17	苗場スキー場	51	:	49	48	:	52	50	:	50	50	:	51	60	:	40
18	石打丸山スキー場	40	:	60	40	:	60	40	:	60	40	:	60	50	:	50
19	舞子スノーリゾート	50	:	50	40	:	60	35	:	65	57	:	43	21	:	79
20	上越国際スキー場	60	:	40	60	:	40	60	:	40	60	:	40	60	:	40
21	黒姫高原スノーパーク	80	:	20	65	:	35	67	:	33	70	:	30	65	:	35
22	斑尾高原スキー場	40	:	60	40	:	60	40	:	60	52	:	48	55	:	45
23	野沢温泉スキー場	62	:	38	36	:	64	63	:	37	60	:	40	65	:	35
24	志賀高原スキー場	71	:	29	80	:	20	77	:	23	78	:	22	78	:	22
25	白馬五竜スキー場	30	:	70	30	:	70	30	:	70	30	:	70	30	:	70
26	白馬八方尾根スキー場	70	:	30	70	:	30	70	:	30	66	:	34	70	:	30
27	白馬岩岳スノーフィールド	35	:	65	34	:	66	39	:	61	40	:	60	43	:	57
28	栂池高原スキー場	35	:	65	35	:	65	30	:	70	40	:	60	40	:	60
29	立山山麓スキー場	50	:	50	50	:	50	50	:	50	50	:	50	50	:	50
30	白山一里野温泉スキー場	60		40	60	:	40	50	:	50	50	:	50	60	:	40
31	草津国際スキー場	69	:	31	67	:	33	65	:	35	64	:	36	64	:	36
32	スノーパーク尾瀬戸倉	45	:	55	35	:	65	35	:	65	40	:	60	50	:	50
33	万座温泉スキー場	70	:	30	73	:	27	78	:	22	72	:	28	71	:	29
34	ハンターマウンテン塩原										25		75	30		70
35	ダイナランド	30	:	70	20	:	80	32	:	68	35	:	65	32	:	68
36	SKI JAM 勝山スキー場	43	:	57	44	:	56	44	:	56	43	:	57	44	:	56
37	箱館山スキー場	73	:	27	71	:	29	64	:	34	64	:	36	67	:	33
38	ハチ北高原スキー場	30	:	70	30	:	70	30	:	70	35	:	65	38	:	62
39	びわ湖バレイスキー場	35	:	65	40	:	60	40	:	60	25	:	75	35	:	65
40	奥神鍋スキー場	60	:	40	40	:	60	40	:	60	50	:	50	40	:	60
41	ハチ高原スキー場	70	:	30	50	:	50	50	:	50	50	:	50	50	:	50
42	だいせんホワイトリゾート	67	:	33	61	:	39	64	:	36	62	:	38	66	:	34
43	芸北国際スキー場	40	:	60	35	:	65	40	:	60	40	:	60	40	:	60
44	恐羅漢スノーパーク	40	:	60	45	:	55	40	:	60	40	:	60	40	:	60
45	瑞穂ハイランド	40	:	60	28	:	72	30	:	70	30	:	70	32	:	68
46	ユートピアサイオト	40	:	60	40	:	60	40	:	60	40	:	60	40	:	60
47	久万スキーランド							21	:	79	18	:	82	18	:	83
	平均	53.5	:	46.5	52.2	:	47.8	52.0	:	48.0	52.0	:	48.0	53.6	:	46.4

9. 受傷時間帯

図 6 は時刻毎に発生した受傷者数を示したものです。スキー場内のケガ全体では 11 時～12 時と 14～15 時に多発しています。スキー，スノーボードのケガも同様でした。

原因は，混雑，雪質や雪の状態の変化，疲労など人的・環境的要因が影響しているものと考えられます。12 時～13 時，13 時～14 時が減少しているのは，昼食時間帯のためと考えられます。

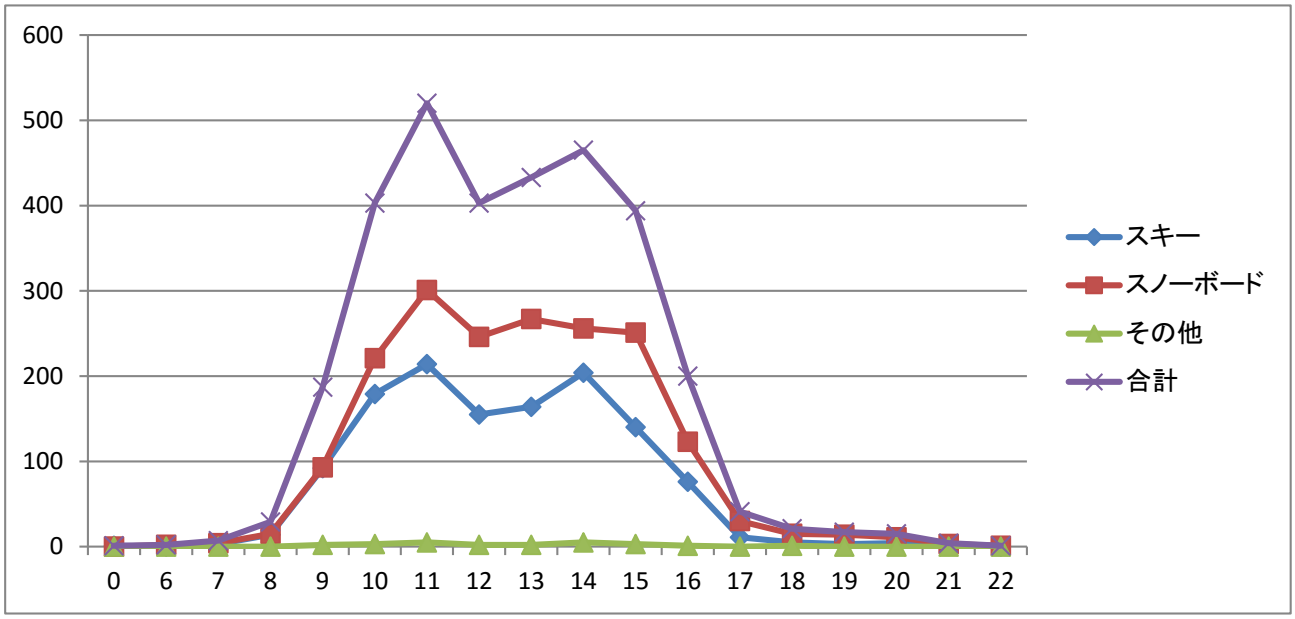


図 6. 受傷時間帯

10. 天 候

図 7 は受傷時の天候です。事故の間接的原因の一つと思われます。

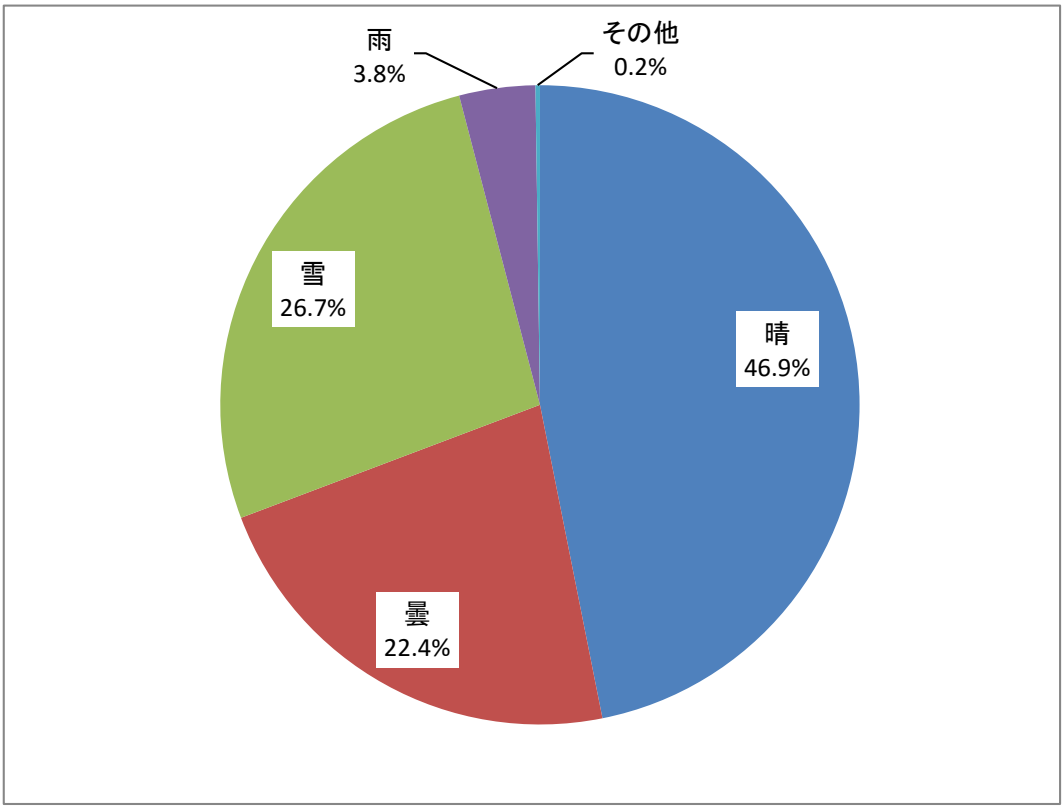


図 7. 天 候

11. 性 別

図8は受傷者の性別を示したものです。「合計」とはスキー，スノーボード，ソリ，その他を合計したものです。

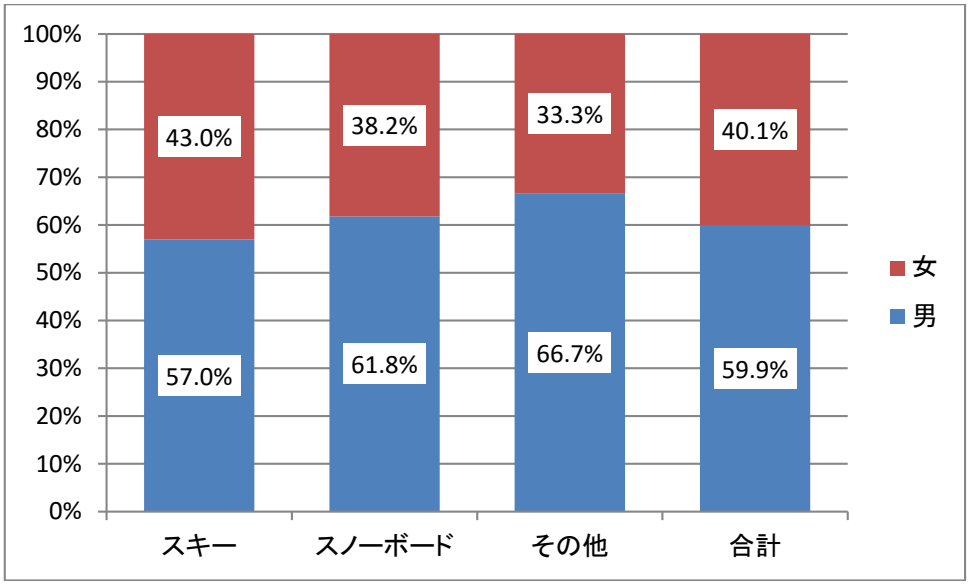


図 8. 性 別

12. 年 齢

図9は受傷者の年代を示したものです。スキーの受傷者は，10歳代が20.0%で最も多く，50歳代で14.9%，60歳代で11.4%，70歳代で5.1%，80歳以上で0.7%と，スノーボードに比べ年齢層が広く，高齢者も多いことが分かります。スノーボードの受傷者は 30 歳代以下が全体の90.4%を占め，スキーに比べて若年層が圧倒的に多いことがわかります。

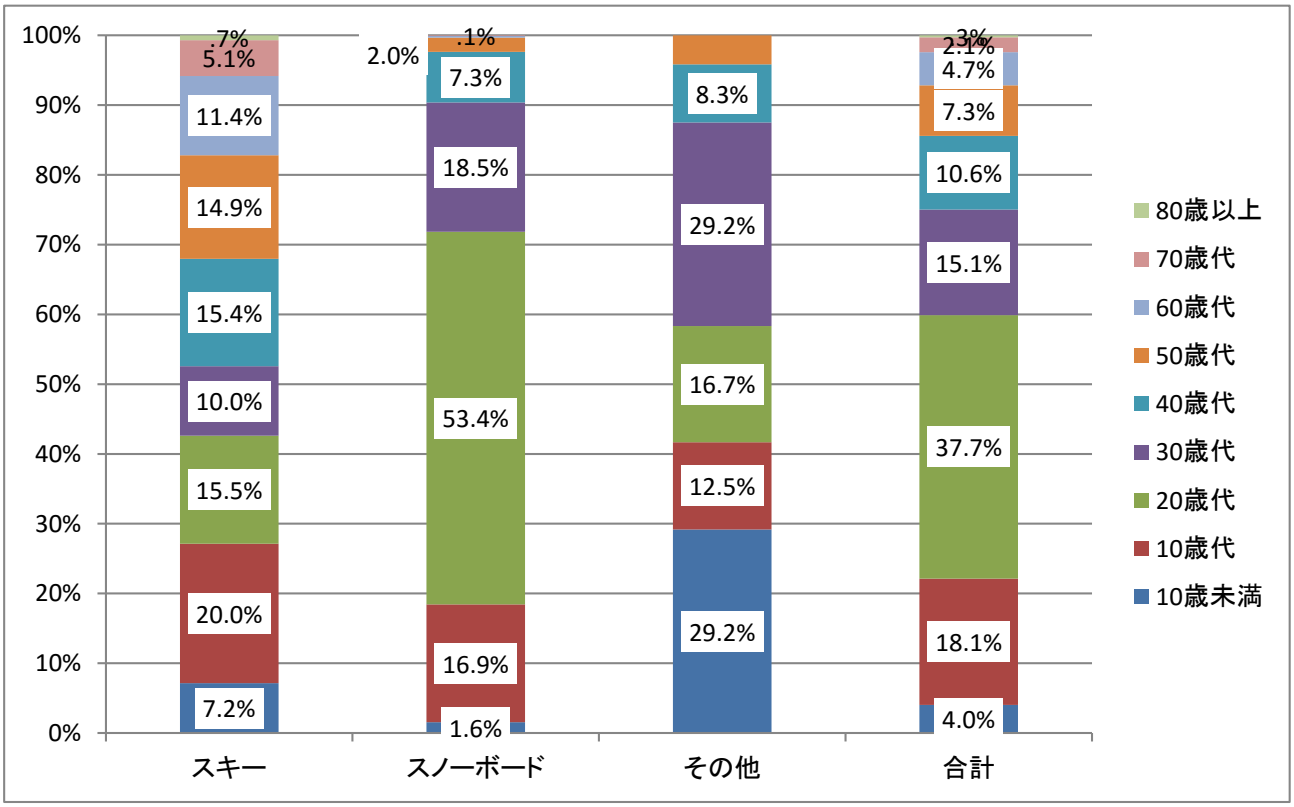


図9. 年齢

13. 技 能

図10 は受傷者の技能を示したものです。スノーボードの受傷者は「初めて・初級者」が約55%を占めるのに対して，スキーは中級と上級合わせて約61%を占めています。

「合計」とはスキー，スノーボード及びその他の受傷者を合計したものです。

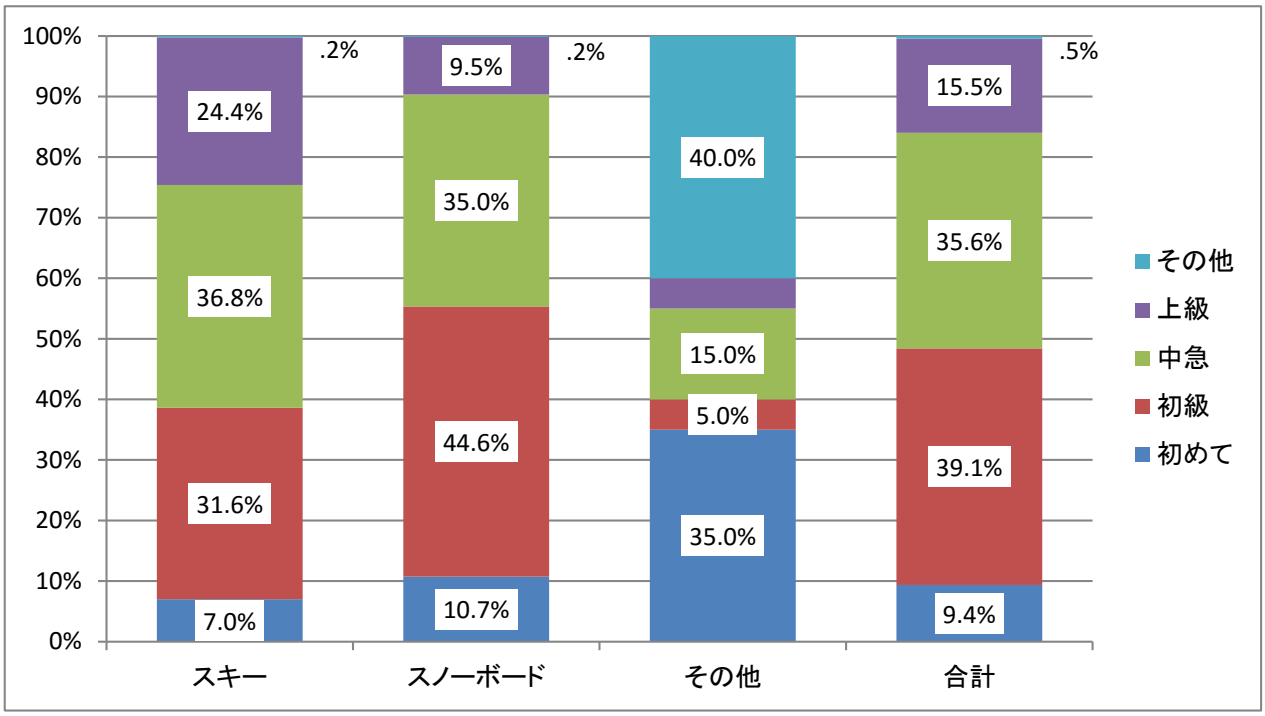


図 10. 技 能

図11 は受傷者の技能を性別に示したものです。スキー，スノーボードの受傷者とも技能レベルは男性が女性より高くなっています。これは，スキー，スノーボードの愛好者の人口そのものが，男性が女性より上級者の占める割合が高いことと関連があると思われます。

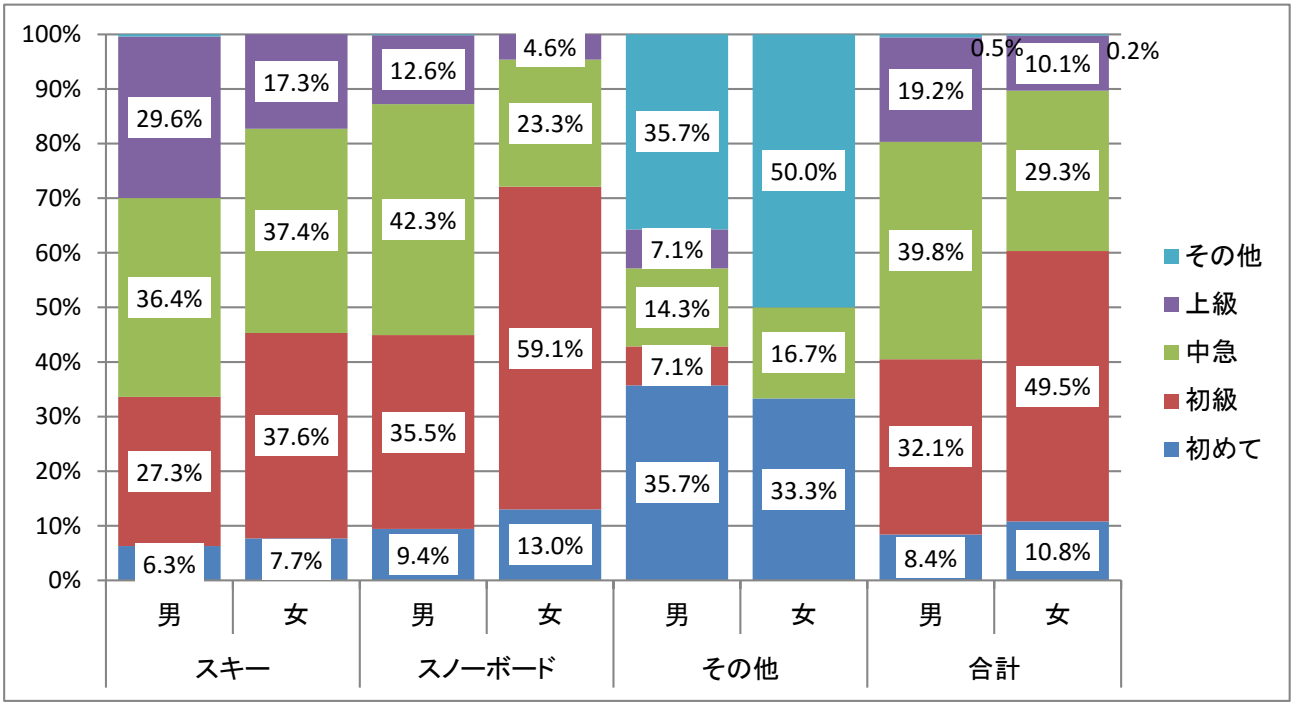


図 11. 性別技能

14. 傷害の部位と種類

傷害の部位と種類は，調査用紙に記入された1番から4番のすべてを合計した延べ数です。すなわち，一人で複数箇所(4箇所まで)ケガをした場合でも記入されている限りすべて集計してあります(複数回答)。図中のｎは集計の対象とした受傷数です。

１）スキーの傷害の部位と種類

図12 はアルペンスキー，スキーボード，テレマークスキー，その他のスキーを合計した傷害の部位です。膝が最も多く（35.4%），次に下腿（13.0%），肩（12.9%），頭部（8.1%），足首（6.7%）の順に多く受傷していました。

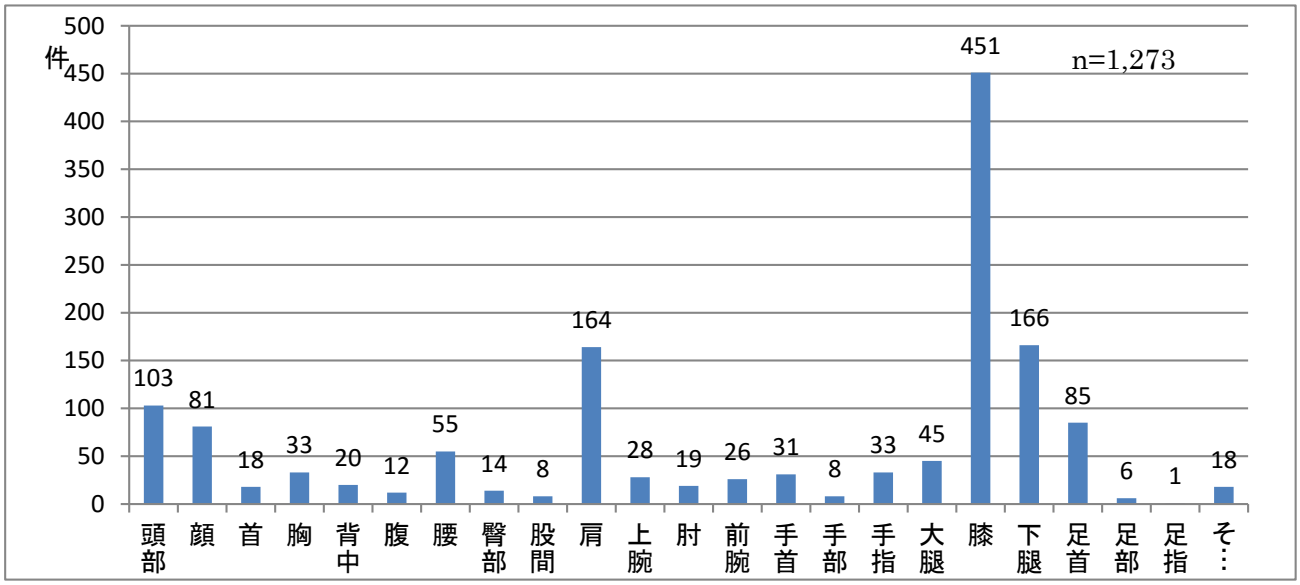
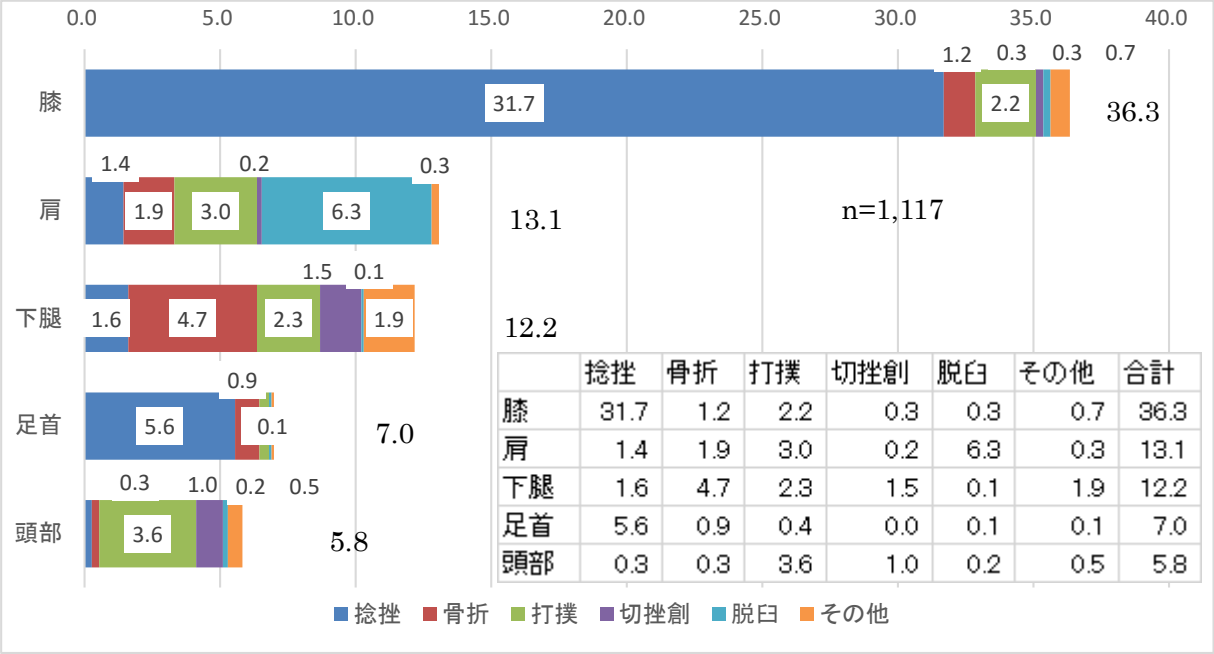


図 12. スキーの傷害の部位（複数回答）

図13 はスキーにおける「自分で転倒」の場合の傷害の部位と種類について，上位5部位を示しています。膝が最も多く36.3%を占め，膝の約87%が捻挫，下腿の39%が骨折，肩の48%が脱臼でした。



	捻挫	骨折	打撲	切挫創	脱臼	その他	合計
膝	31.7	1.2	2.2	0.3	0.3	0.7	36.3
肩	1.4	1.9	3.0	0.2	6.3	0.3	13.1
下腿	1.6	4.7	2.3	1.5	0.1	1.9	12.2
足首	5.6	0.9	0.4	0.0	0.1	0.1	7.0
頭部	0.3	0.3	3.6	1.0	0.2	0.5	5.8

図13. スキーにおける「自己転倒」の傷害の部位と種類（複数回答）

２）スノーボードの傷害の部位と種類

図 14 はフリースタイルスノーボード，アルペンスノーボード，その他のスノーボードを合計した傷害の部位です。手首(18.4%)，肩(17.1%)，頭部(10.1%)，膝(8.4%)，腰(7.7%)の順に多く受傷しています。肩と上肢の合計は 52.5%に達し，スキーの下肢の合計(59.2%)と比べて対照的です。

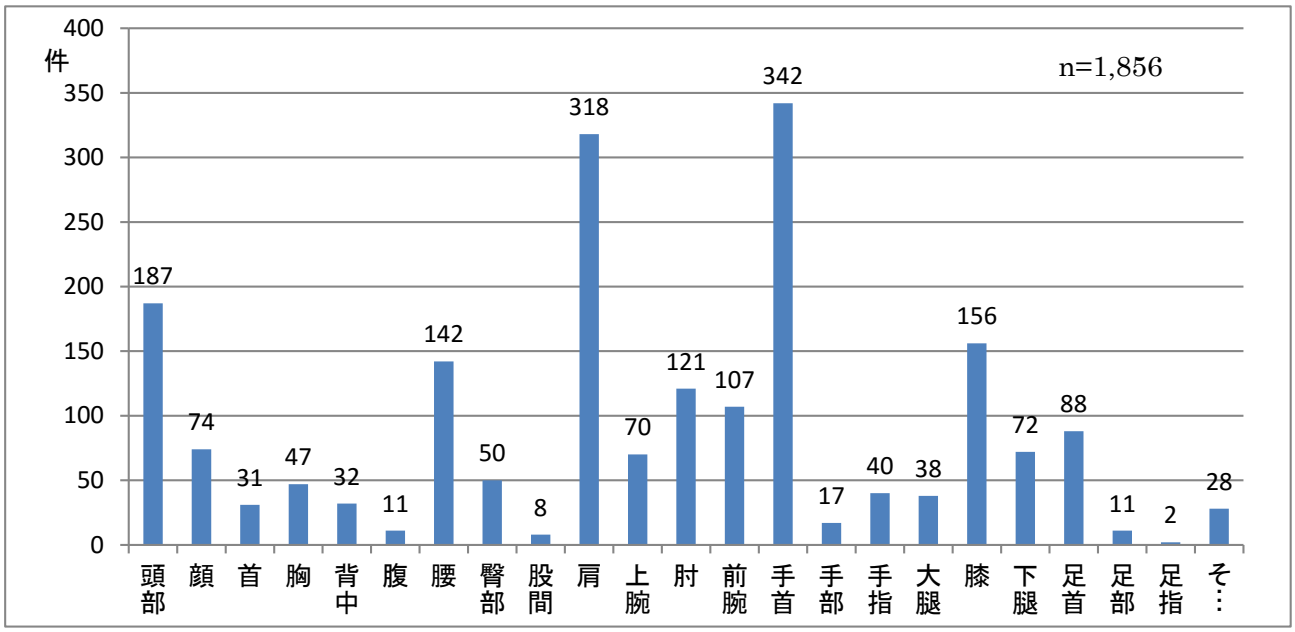
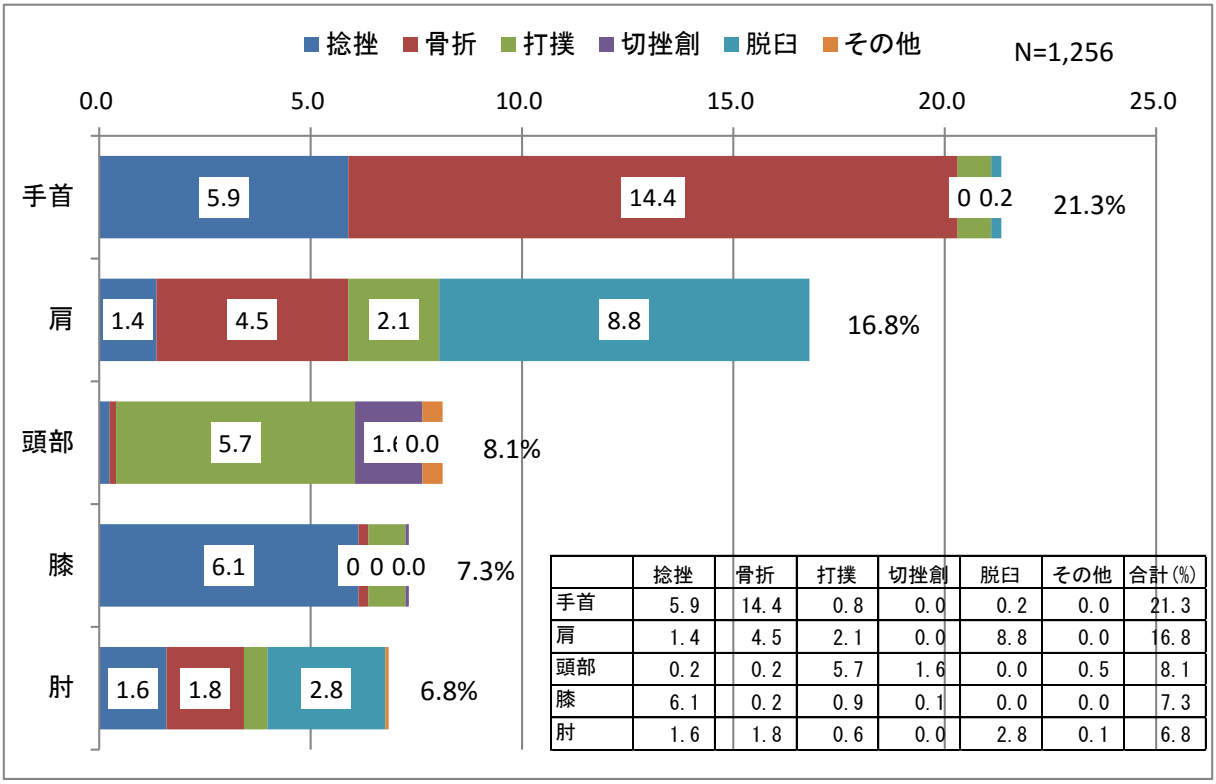


図 14. スノーボードの傷害の部位(複数回答)

図15 はスノーボードにおける「自分で転倒」の場合の傷害の部位と種類について，上位5部位を示しました。手首と肩の割合が多く，肩の52%が脱臼，手首の68%が骨折でした。頭部のケガの90%が打撲・切挫創であることから，ヘルメット着用の重要性を示唆する結果といえます。



	捻挫	骨折	打撲	切挫創	脱臼	その他	合計(%)
手首	5.9	14.4	0.8	0.0	0.2	0.0	21.3
肩	1.4	4.5	2.1	0.0	8.8	0.0	16.8
頭部	0.2	0.2	5.7	1.6	0.0	0.5	8.1
膝	6.1	0.2	0.9	0.1	0.0	0.0	7.3
肘	1.6	1.8	0.6	0.0	2.8	0.1	6.8

図15. スノーボードにおける「自己転倒」の傷害の部位と種類(複数回答)

３）ソリの傷害

ソリの受傷は7件で，その内3件が重傷でした。表8にその受傷概況を示しました。安全が確保されているはずのキッズパーク等での受傷が目立つことから，何らかの対策を急ぐ必要があります。

表 8. ソリの傷害の概況

事例	性別	年齢	受傷原因	用具	受傷場所	部位1	傷害の種類	傷害の程度
1	女	9	コースアウト	子ども用ソリ	キッズワンダーランド	肘	骨折	重傷（緊急に必要）
2	女	39	コースアウト	連結	キッズワンダーランド	膝	打撲	軽傷（さほど必要なし）
3	男	4	転落・滑落	子ども用ソリ	緩斜面（～10°）	顔	打撲	重傷（緊急に必要）
4	女	24	その他（人と衝突）	チューブソリ	アトラクション・チューブソリコース	頭部	打撲	軽傷（さほど必要なし）
5	女	24	その他（人と衝突）	チューブソリ	アトラクション・チューブソリコース	頭部	打撲	軽傷（さほど必要なし）
6	女	37	その他（人と衝突）	子ども用ソリ	キッズパーク	手首	骨折	中等傷（必要あり）
7	女	5	その他（人と衝突）	子ども用ソリ	キッズパーク	その他	骨折	重傷（緊急に必要）

15. 受傷原因

図16 は受傷原因を示したものです。スキー，スノーボードともに「自分で転倒」の割合が最も高くなっています。「人と衝突」の割合は，スキーがスノーボードより6.0ポイント高率でした。

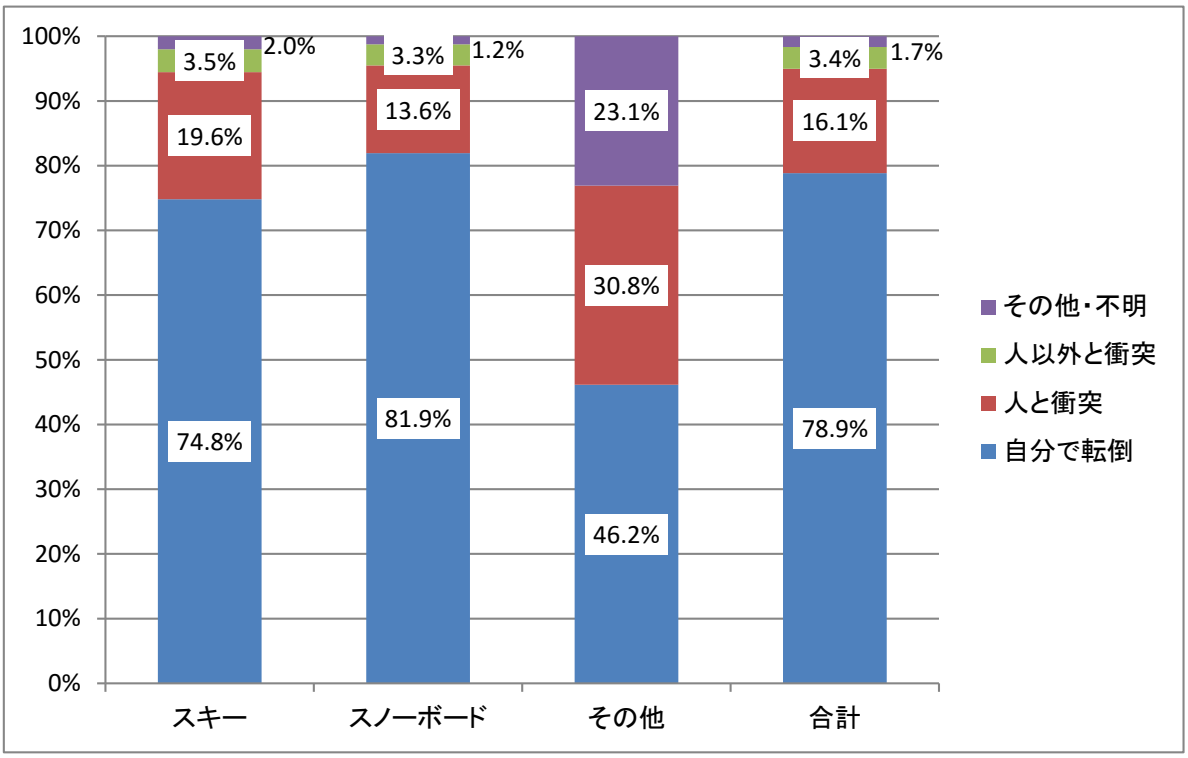


図 16. 受傷原因

図 17 は受傷原因のうち「自分で転倒」についての内訳です。スキー，スノーボードとも「バランスを崩して転倒」の割合が最も高く，スキーでは 91.1%を，スノーボードでは 72.2%を占めました。スノーボードの「ジャンプ失敗」「トリック失敗」は合わせて 19.7%でした。

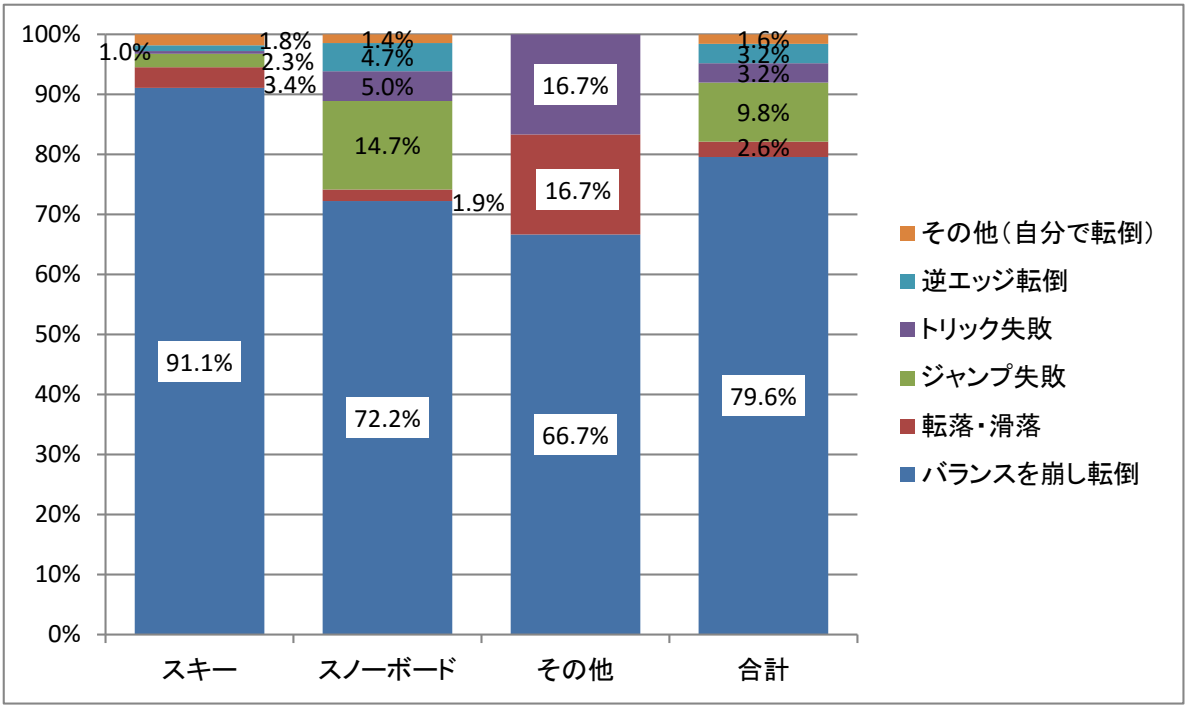


図 17. 受傷原因「自分で転倒」の内訳

図18 は受傷原因のうち「人と衝突」についての内訳です。スノーボードでは，スノーボーダー同士の衝突が約75%と高率でした。それに対してスキーヤーは，「スキーヤー」「スノーボーダー」との衝突は共に約半数を占めました。

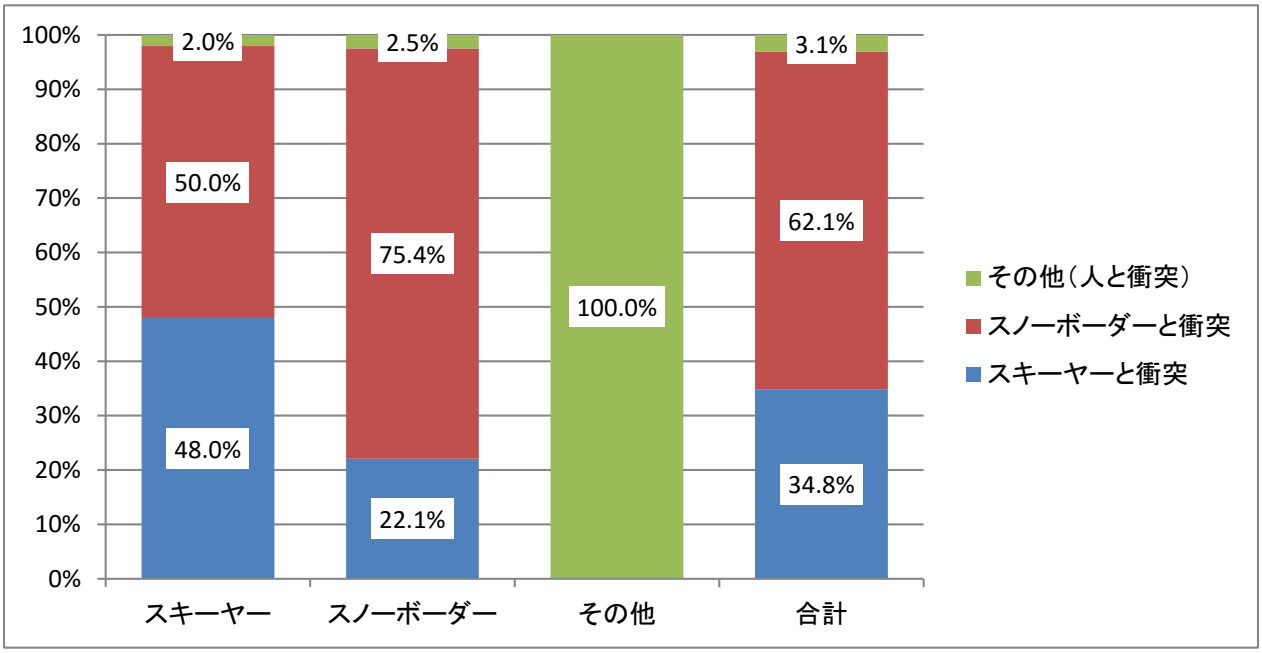


図 18. 受傷原因「人と衝突」の内訳

受傷原因のうち「人以外との衝突」で最も多かったのは「立ち木」で，スキー13 件，スノーボードで28 件でした。

※ 衝突相手の確認について

「人と衝突」したのは423 件でした。このうち「相手の確認」の有無の欄に回答した366件中，258件（70.5%）が衝突の相手を「確認している」，108件（29.5%）が「不明」と回答していました。

※ 飲酒について

スキー，スノーボードで飲酒の有無欄に記載があったのは2,265件で，このうち「飲酒」とあったのは58件（2.6%）でした。

16. 受傷場所

図 19 は受傷の場所を示したものです。スノーボードでは，「ワンメイク」での受傷の割合がスキーと比べて高くなっています。スノーボードの「その他の場所」では，ボックス，キッカー，FRP，レールが多く見られました。

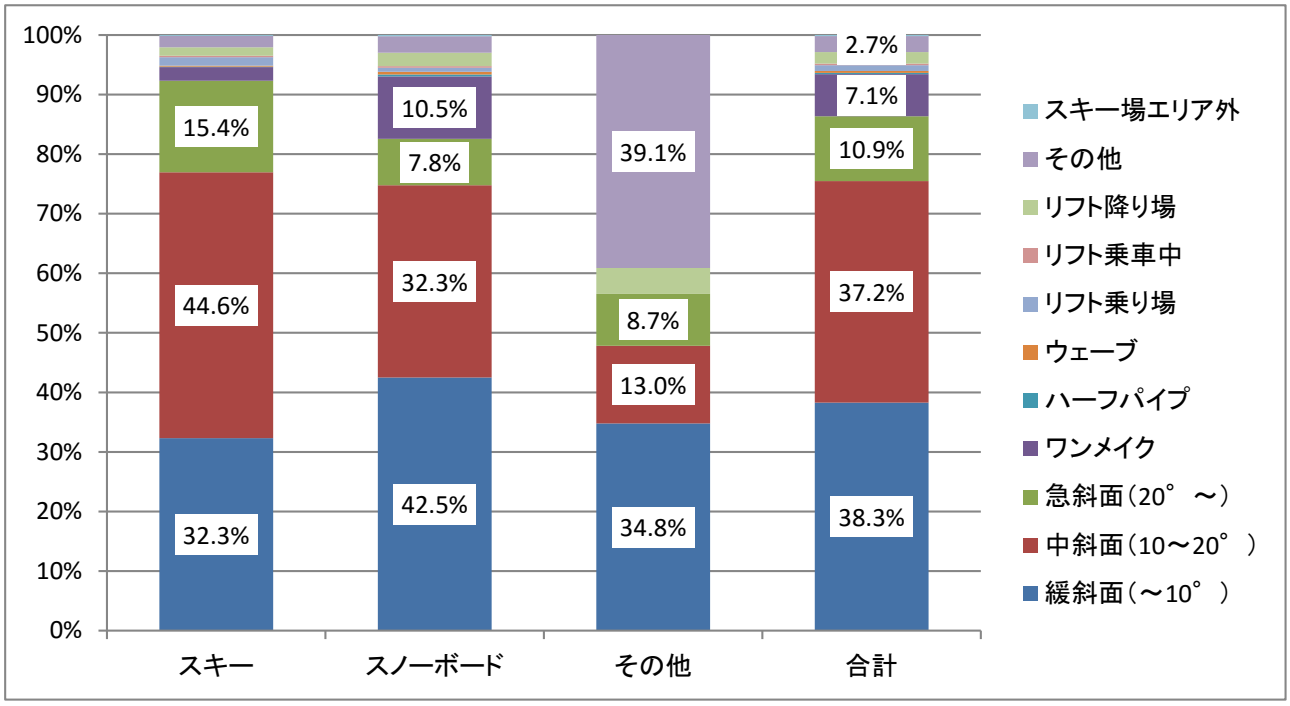


図 19. 受傷場所

図20 はリフト乗り場・乗車中･降り場での受傷場所の内訳を示したものです。スキーでは39 人が受傷しており，スノーボードでは58 人が受傷していました。スノーボードのリフト降り場でのケガはスキーの約2.3倍多く発生しているのがわかります。

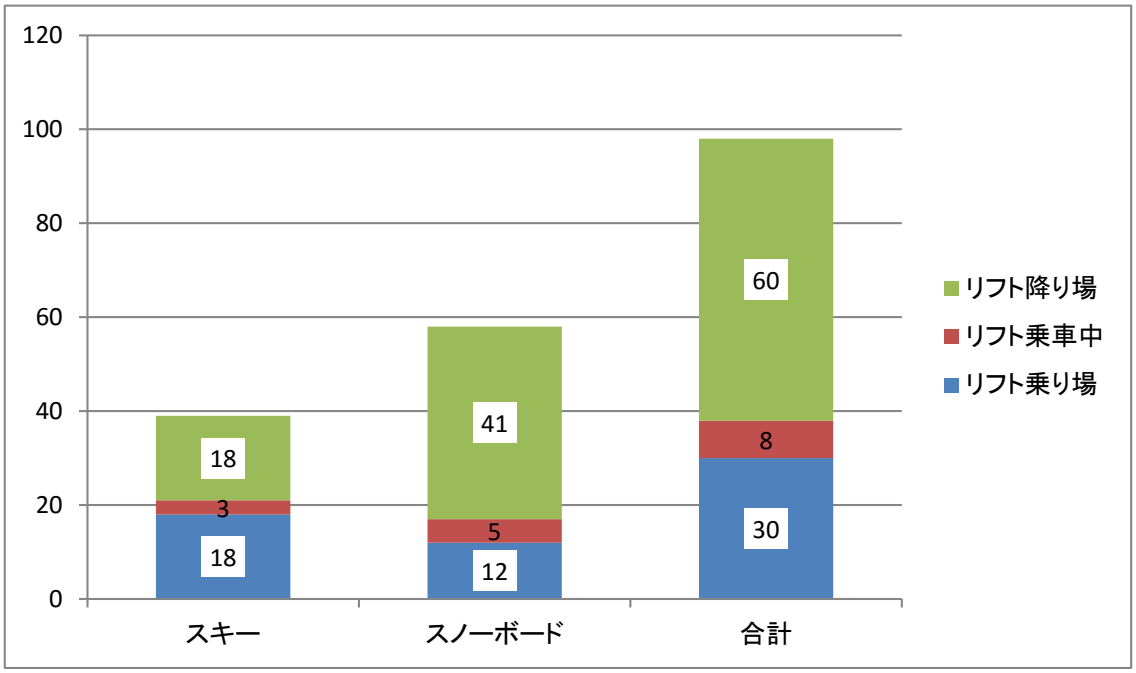


図 20. 受傷場所「リフト乗車･乗降中」の内訳

17. 受傷時の行動

図21 は受傷時の行動について示したものです。スキー，スノーボードとも「プライベート」での受傷が最も多くなっています。スキーにおいて「講習中」の受傷の割合が比較的高いのは，スノーボードより講習を受講する機会が多いことと関連があると思われます。

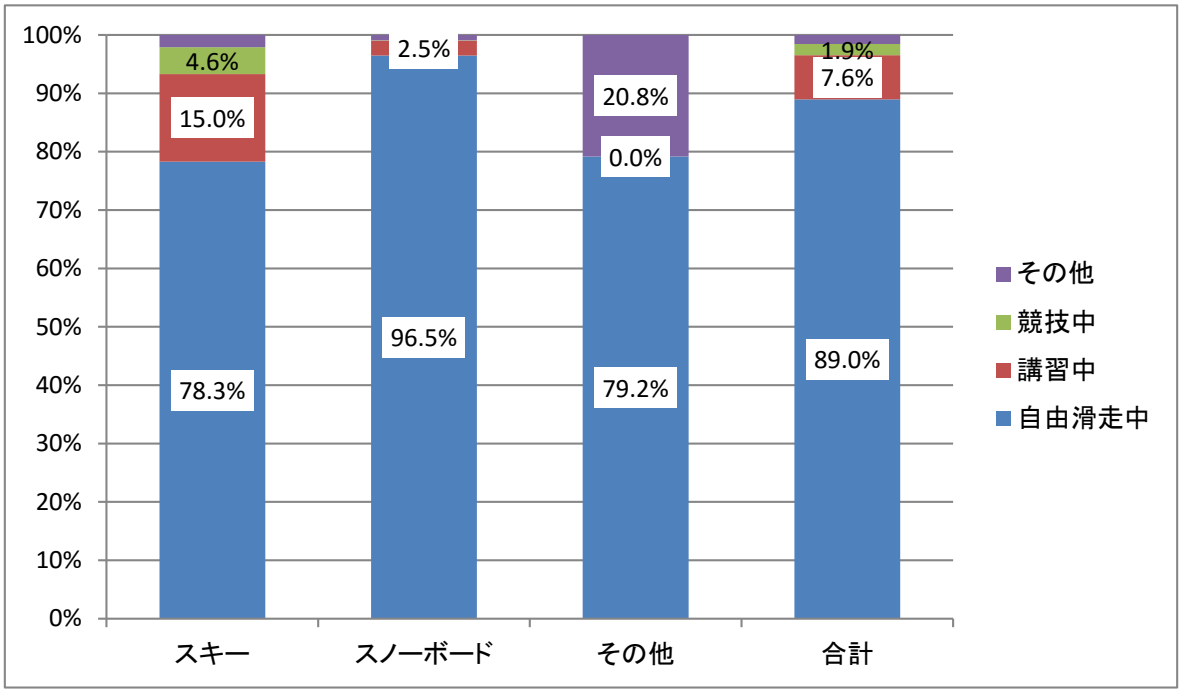


図 21. 受傷時の行動

図22 は受傷時の行動のうち「講習中」の内訳です。スキーヤー192人、スノーボーダー47人が受傷していました。「授業・講習中」に「指導者」が受傷したと回答があったのは，スキー2人，スノーボード2人でした。

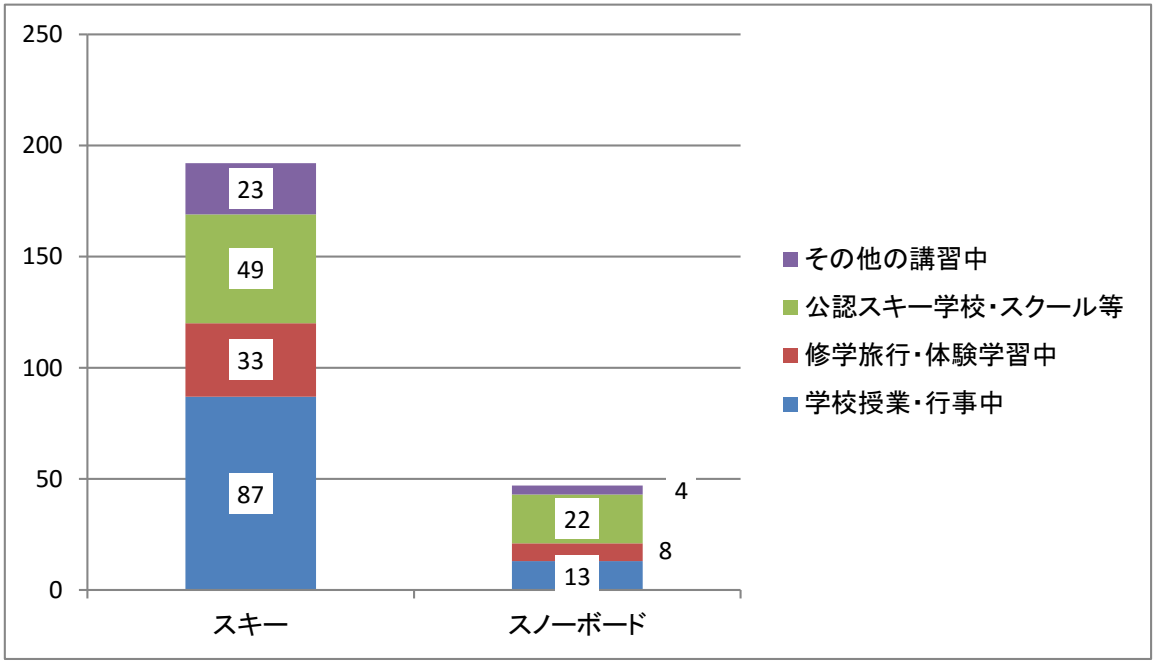


図 22. 受傷時の行動「講習中」の内訳

18. 傷害程度

図23 は傷害の程度を示したものです。重傷の割合はスキーがスノーボードより3.5ポイント大きく、中等傷は7.1ポイント小さかった。シーズン中の死亡事故については，資料1～3 をご覧ください。

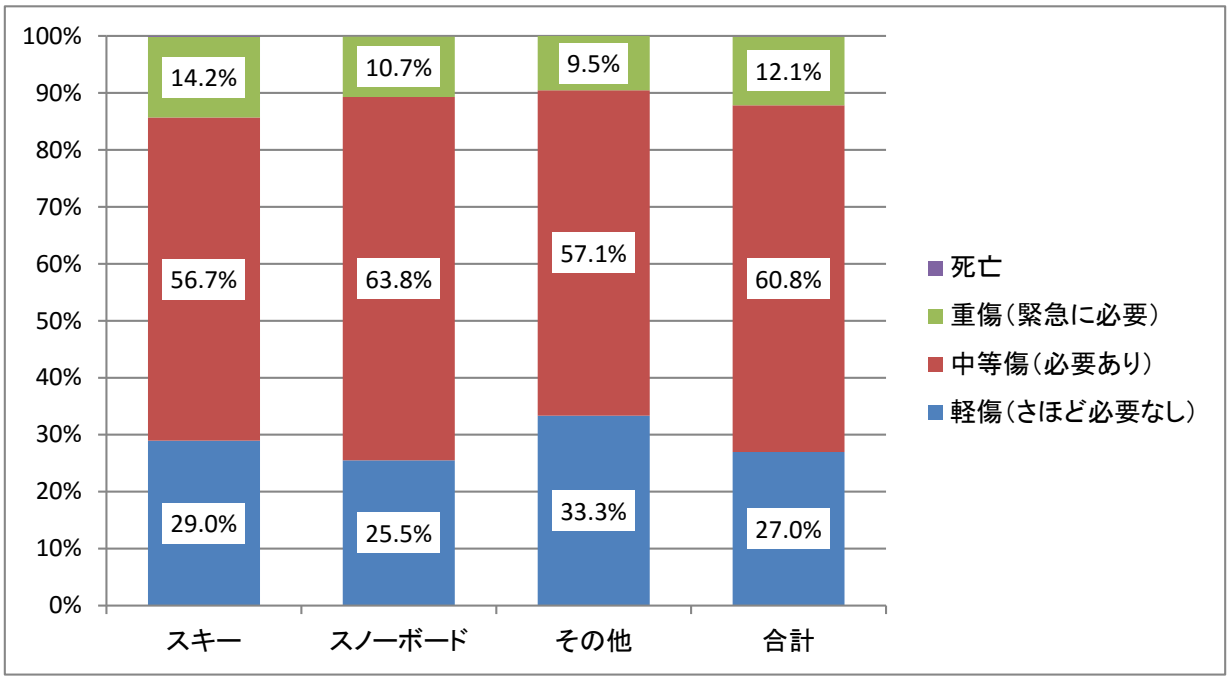


図 23. 傷害程度

19. 頭を強く打った疑い

図24 は「頭を強く打った疑い」の割合です。スキーもスノーボードも12～14%代の高率で頭部を強打していることから，ヘルメットの着用が勧められます。また，頭部強打の際に頸椎損傷も同時に起こる可能性が高いので受傷後注意が必要です。

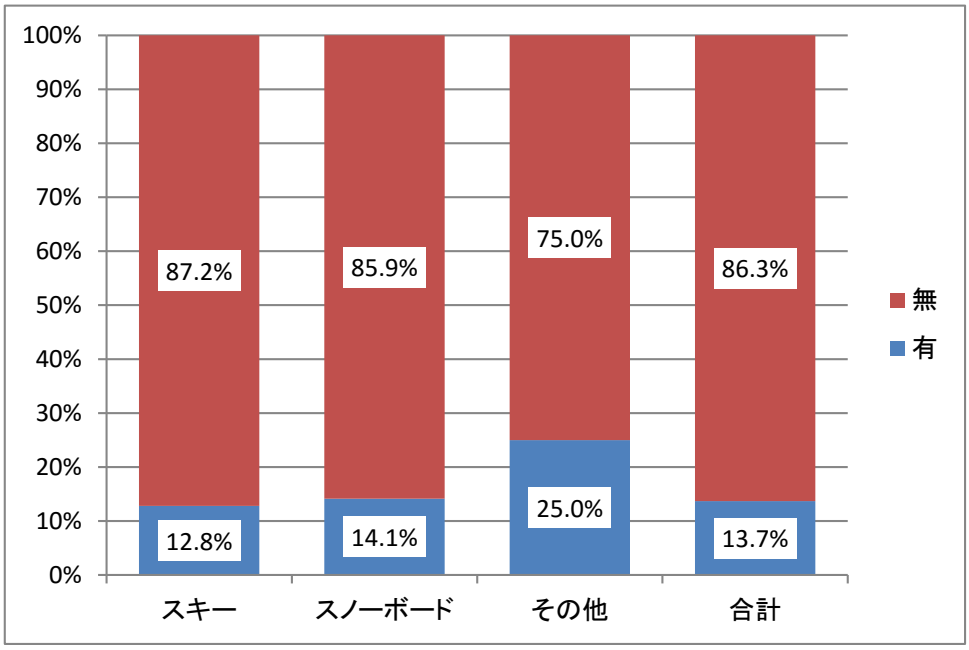


図 24. 頭を強く打った疑い

20. ヘルメットの着用状況

図25 は受傷時のヘルメット着用の有無です。スキーでは，昨シーズンの29.6%より7.4ポイント増加し37.0%に，スノーボードでは10.0%から3.9ポイント増加し13.9%となりました。しかし，欧米のヘルメット着用率の約8割には到底及びません。さらなる啓蒙活動が望まれます。

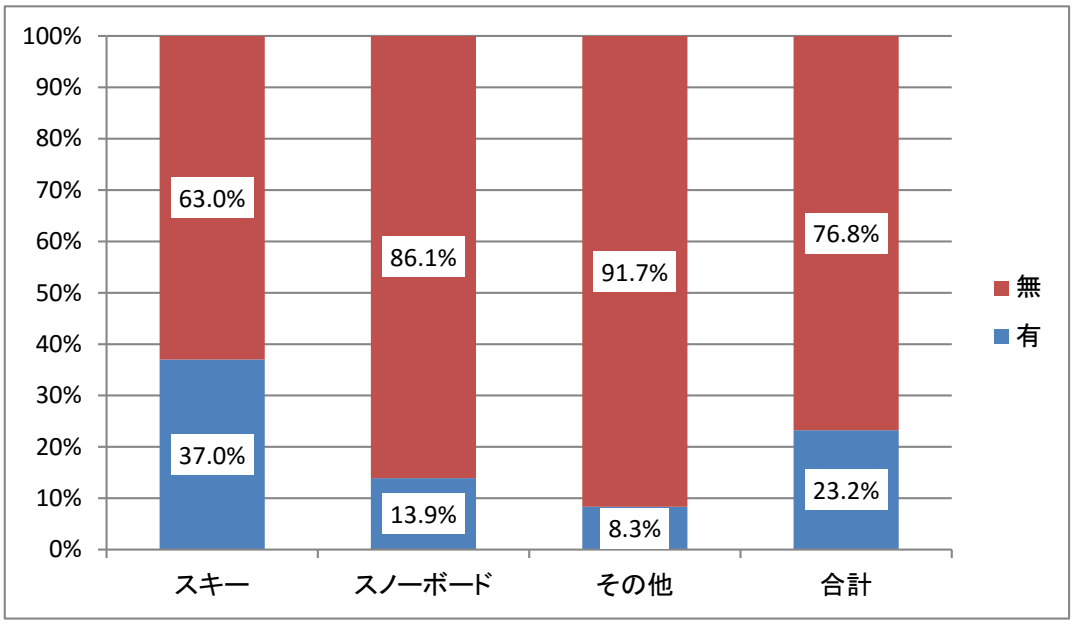


図 25. ヘルメット着用の有無

21. 受傷時のスピード

図26 は受傷時の「自覚的」スピードを示したものです。スキー，スノーボードともに約80%が「ふつう」以下のスピードで受傷しています。「自己転倒」による受傷はスキーで79.1%，スノーボードで83.6%に達することから，「ふつう」のスピードと感じていても自分で制御できないほどのスピードが出ていることがわかります。「速度」を自覚し自己制御することが傷害予防の重要なカギとなります。

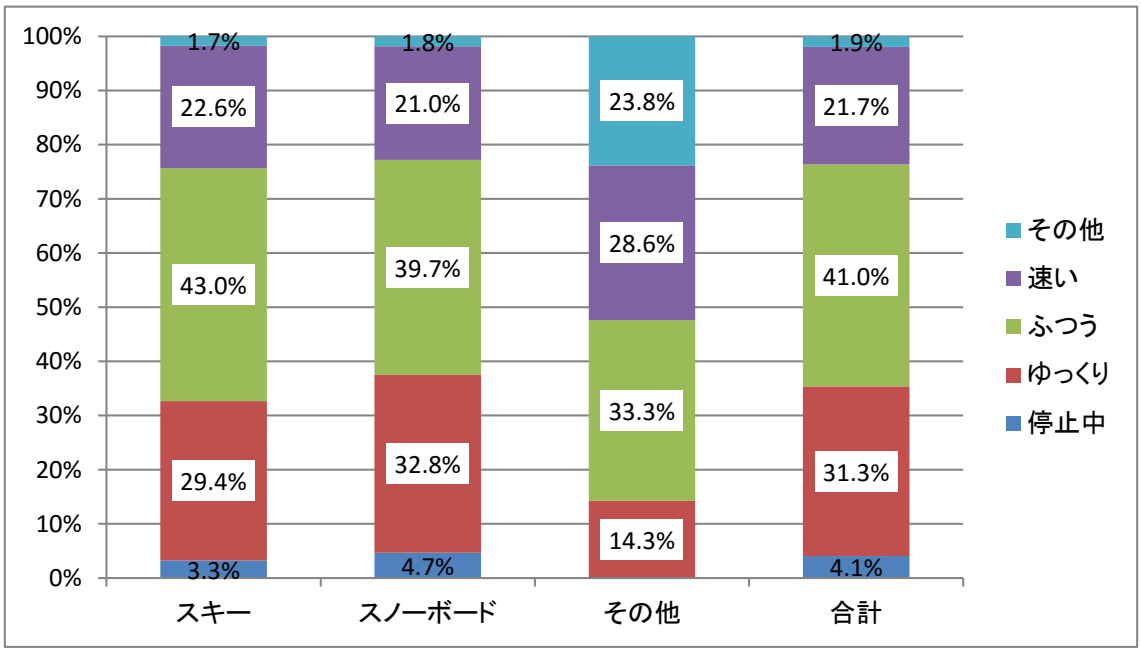


図 26. 受傷時のスピード

22. 保険の加入状況

１） 傷害保険の加入状況

図27 は受傷者の傷害保険の加入状況です。スキーの受傷者の方がスノーボードの受傷者よりも13.8ポイント加入率が高率でした。加入しているかどうかがわからない受傷者が，スキーやスノーボードで約4割近く存在することは驚きです。さらなる保険加入への啓蒙活動が必要です。

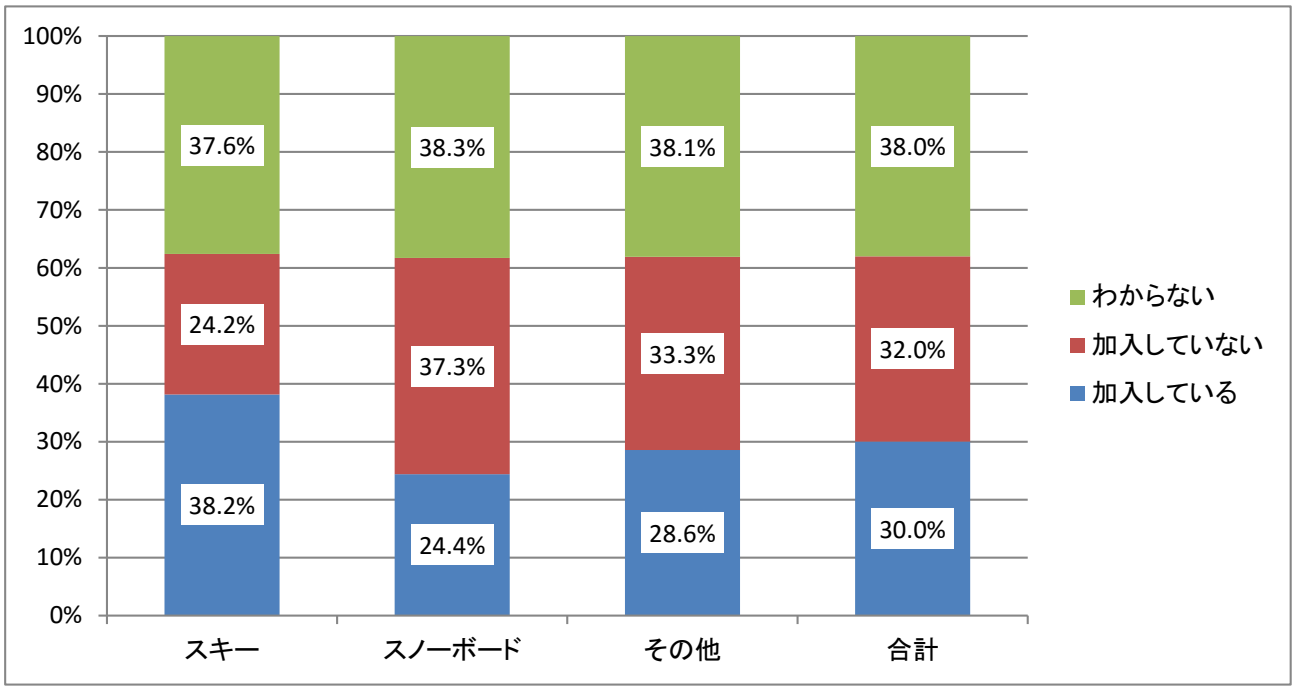


図27. 傷害保険の加入状況

２） 賠償責任保険の加入状況

図28 は受傷者の賠償責任保険の加入状況です。傷害保険と同様にスキーの受傷者の方がスノーボードの受傷者よりも6.7ポイント高率でした。加入しているかどうかがわからない受傷者が，スキー・スノーボードも約5割もいました。

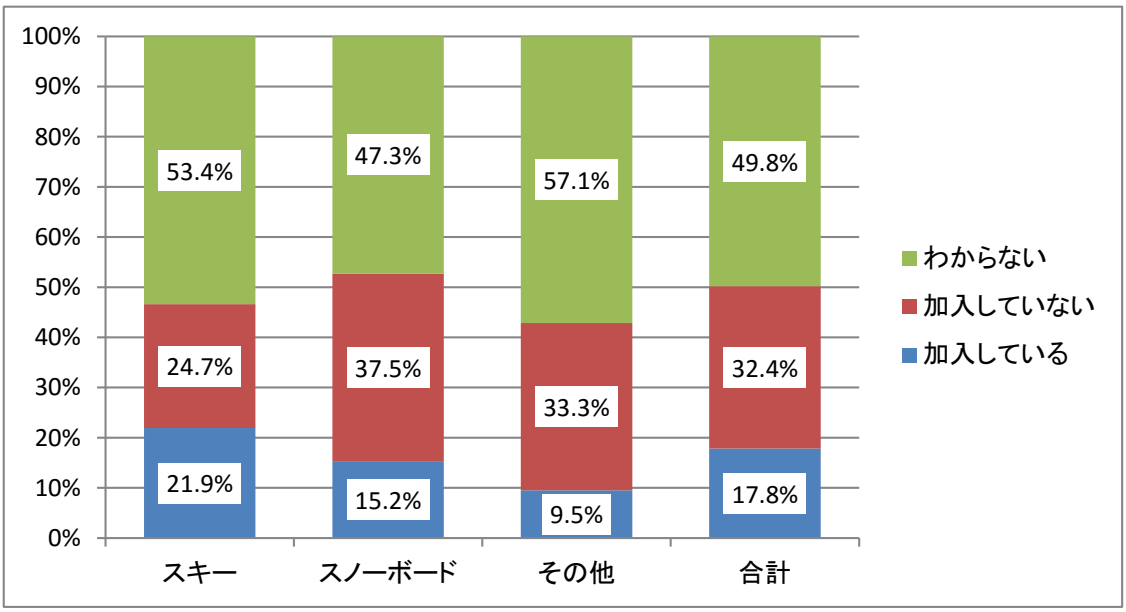


図 28. 賠償保険の加入状況

23. 雪面状況

図29 は受傷時の雪面状況です。スキー，スノーボードともに受傷時の雪面は「スムース」の割合が最も高く，約80～87%を占めていました。

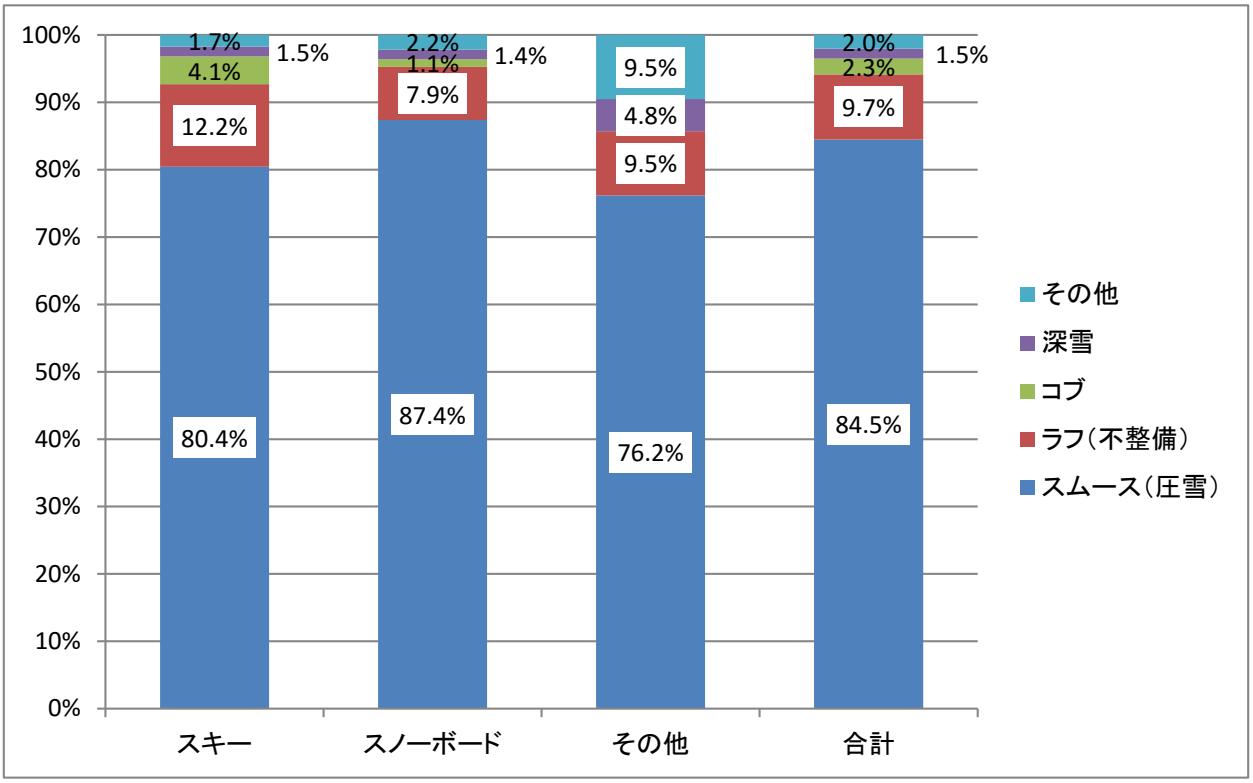


図 29. 雪面状況

24. 雪 質

図30 は受傷時の雪質です。スキー，スノーボード，その他の合計で約53.3%が乾雪でした。

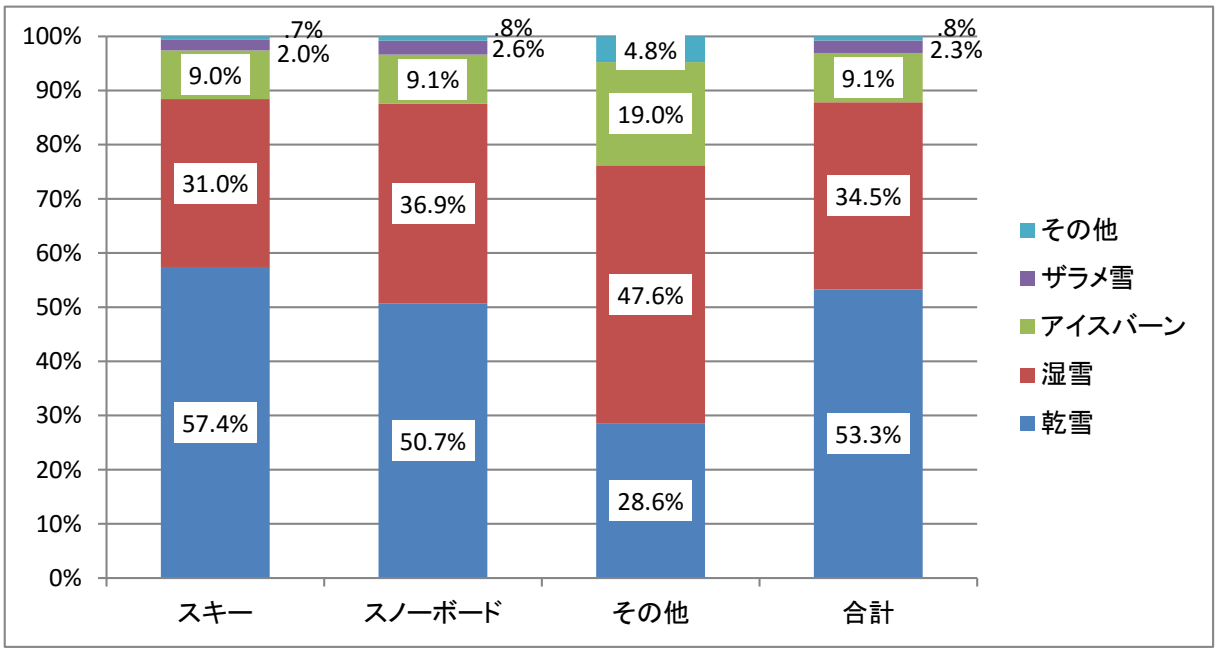


図 30. 雪質

資料1　平成27年度シーズンのゲレンデ(管理区域外含む)等における死亡事故

平成28年3月31日現在

道府県	北海道		岩手県		新潟県		群馬		長野県		広島県						合 計	
項　目	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員
スキーヤー	1	1			1	1	1	1			2	2					5	5
スノーボーダー			1	1					1	1							2	2
チェアスキー																		
その他(雪上車)					1	1											1	1
計	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	2	2					8	8

《スキーヤー》

件数	性別	年齢	事故状況	発生原因	備 考
1	男	70	転倒し上半身が雪に埋まり身動きが取れなくなった	転倒による自損事故	
2	女	12	ボーダーと正面衝突	スピードの出し過ぎで視界が狭くなり気付くのが遅れたもよう	
3	男	66	管理区域外に入り沢に滑落した	コース逸脱し誤って滑落	
4	男	36	管理区域外で雪崩に巻き込まれた	管理区域外滑走	
5	男	47	立入禁止区域ではない管理区域外で立木に衝突	管理区域外滑走	

《スノーボーダー》

件数	性別	年齢	事故状況	発生原因	備 考
1	男	29	コース外に転落し立木に衝突(頭蓋内損傷)	スピードの出し過ぎでコース外に逸脱した	
2	女		台湾からのツアー客、レッスン中に前のめりに転倒(脳挫傷)	初心者でもありインストラクターの指導が適正だったのか問われる	

《そ の 他》

件数	性別	年齢	事故状況	発生原因	備 考
1	男	55	雪上車の履帯の下敷きとなった	運転者がパーキングブレーキを掛てなかったことにより助手席から降りた従業員を轢いた	

資料 2　2014/2015 スキーシーズン死亡者の内訳及び原因

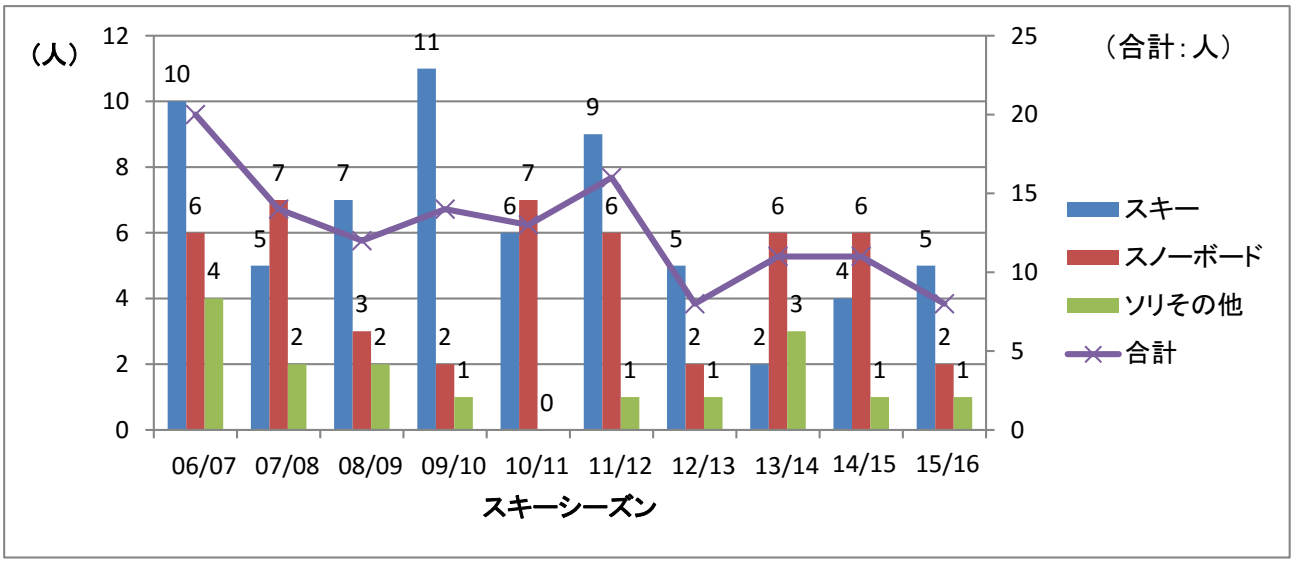
平成28年3月31日現在

項　目	性　別			死亡までの日数			死　亡　原　因							
	男性	女性	計	当日	翌日	3日以降	転倒	お客同士衝突	新雪に頭部を埋没	コース外			スノーモビル	合計
										雪崩	立木他に衝突	沢に転落	転倒下敷き	
スキーヤー	4	1	5	5				1	1	1	1	1		5
スノーボーダー	1	1	2	2			1				1			2
その他（雪上車）	1	0	1	1									1	1
計	6	2	8	8			1	1	1	1	2	1	1	8

※　事務局で情報を収集できたものを掲載しました。

※　行方不明者で、その後遺体で発見された人については死亡までの日数は発見状況から当日としました。

資料 3　スノースポーツ死亡者数の 10 年間の推移



資料４　傷害調査用紙

スキー場控

スキー場名＿＿＿＿＿＿＿＿　　**2016年2月スキー場傷害調査用紙**　　No. S・B-＿＿＿＿

❶ 負傷日時：月　日（　）　時　分頃（時間は24時間制で記入願います）

❷ 天候：1晴　2曇　3雪　4雨　5その他（　）

❸ 負傷者：ふりがな　氏名　　1男　2女　年齢（　）歳

❹ 住所：（〒　－　）　TEL.　－　－

❺ 用具：
- スキー：1アルペンスキー　2スキーボード(100cm未満)　3テレマークスキー　4クロスカントリースキー　5その他のスキー（　）
- スノーボード：6フリースタイルスノーボード　7アルペンスノーボード　8その他のスノーボード
- ソリ：9子ども用ソリ　10腰掛ソリ　11立ち乗りソリ　12その他のソリ（　）
- その他：13（具体的に　）

❻ 受傷場所：1緩斜面（　～10°）　2中斜面（10～20°）　3急斜面（20°以上）　4ワンメイク　5ハーフパイプ　6ウエーブ　7リフト乗り場　8リフト乗車中　9リフト降り場　10その他（　）　11スキー場エリア外

❼ 受傷原因：
- 自分で転倒：1バランスを崩して　2転落・滑落　3ジャンプの失敗　4トリックの失敗　5逆エッジ転倒　6その他（　）
- 人と衝突：7スキーヤーと衝突　8スノーボーダーと衝突　9その他の人（　）
- 人以外と衝突：10立木　11岩・石　12ネット　13リフト支柱　14看板・標識　15その他（　）
- その他：16具体的に記入　17原因不明

❽ 傷害の部位と種類：傷害の部位と種類を下の表より選び番号で記入してください。
※複数のケガの場合は，傷害の重い順に記入して下さい。

傷害重傷順に記入	1番	2番	3番	4番
(部位番号は一枠一個の事) 傷害の部位				
(左・右・該当無し)	左・右・無	左・右・無	左・右・無	左・右・無
傷害の種類				

❿ 傷害程度（医療機関での治療が）：1軽　傷（さほど必要なし）　2中等傷（必要あり）　3重　傷（緊急に必要）　4死　亡

⓫ 頭を強く打った疑い：1有　2無

⓬ ヘルメットの着用：1有　2無

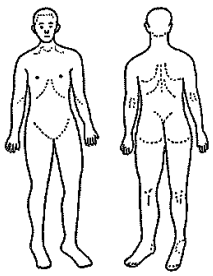
⓭ 技能：1初めて　2初級　3中級　4上級　5その他

⓮ 自分のケガのための傷害保険に：1加入している　2加入していない　3わからない

⓯ 相手のケガのための賠償責任保険に：1加入している　2加入していない　3わからない

部位：1頭　2顔　3首　4胸　5背中　6腹　7腰　8臀部　9股間　10肩　11上腕　12肘　13前腕　14手首　15手部　16手指　17大腿　18膝　19下腿　20足首　21足部　22足指　23その他（　）

❾ ケガの部位に×印をつけてください



種類：1捻挫（靭帯損傷を含む）　2骨　折　3打　撲　4切挫創（きりきず・すりきず）　5脱　臼　6その他（　）

⓰ 行動：
- 〈プライベート〉：1自由滑走中
- 〈講習中〉：2学校授業・行事中　3修学旅行・体験学習中　4公認スキー学校・スクール等　5その他の講習中（ケガをしたのは，1生徒　2指導者　3アシスタント）
- 〈競技中〉：6ポール練習中　7大会・競技出場中
- 〈その他〉：8具体的に（　）

⓱ スピード：1停止中　2ゆっくり　3ふつう　4速　い　5その他（　）

⓲ 雪面状況：1スムース（圧雪）　2ラフ（不整備）　3コブ　4深　雪　5その他（　）

⓳ 雪質：1乾　雪　2湿　雪　3アイスバーン　4ザラメ雪　5その他（　）

備考

⓴ 衝突の相手：1確認している　2不　明　1男　2女
氏名＿＿＿＿
住所＿＿＿＿
TEL.　－　－

以下はパトロールの方が記入してください。

搬送方法：
- ㉑事故現場→救護室・駐車場　1アキヤ　2スノーボート　3スノーモビル　4自分で　5その他
- ㉒救急処置後の行動　1病院へ（病院名：　）　2その他
- ㉓スキー場→病院：1救急車　2スキー場関係の車　3負傷者関係の車　4ヘリコプター　5その他　㉔ 飲酒：1有　2無

搬送者氏名	処置者氏名	記録者氏名	記録　年　月　日

※該当する番号に○印、✓印または文字・数字を記入してください。
※右上のNo. S・Bはスキーヤー（S）、スノーボーダー（B）に分けて各々１から番号をつけてください。
※この調査用紙は全国スキー安全対策協議会のスキー場傷害報告書作成以外の目的には使用致しません。
※２枚目は、氏名、住所、相手の氏名、住所は複写になっておりません。

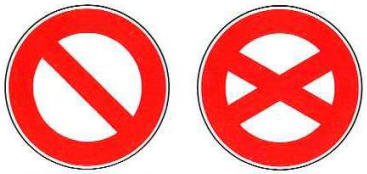
ご協力有難うございました
全国スキー安全対策協議会

資料5 全国統一スキー場標識及び標示マーク等色刷一覧表

全国スキー安全対策協議会

A 禁止標識

危険な事態を避けることを目的とした標識で、ある特定の行為を禁止するもの。



禁止の基本様式
中央に黒い図記号(又は字句)

❶立入禁止

❷歩行禁止

❸スノーモビル等禁止

❹スキー滑走禁止

❺講習禁止

❻ポール禁止

❼スノーボード禁止

❽飛び降り禁止

❾搬器を揺らすな

(❽、❾はリフト標識に使用される)

B 注意標識

注意すべき情況を知らせる為の標識で、警戒して慎重な行動をとるよう求めるもの。

注意の基本様式
中央に黒い図記号(又は字句)

❶危険・注意せよ

❷注意してユックリ行け

❸凸凹あり

❹整備車両に注意せよ

❺ガケあり

❻右に(左に)合流する

❼分かれる

❽じぐざぐコースとなる

❾左(右)急カーブとなる

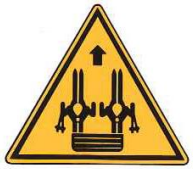
❿せまくなる

⓫橋あり

⓬急斜面となる
(斜度数字の有無は選択とする)

⓭林間の下りとなる

⓮降りる準備をせよ



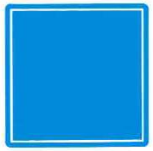
⓯降りたら直進せよ(A)

⓰降りたら直進せよ(B)

(⓮、⓯、⓰はリフト標識に使用される)

C 指示標識

安全の確保を目的に秩序の維持を図る標識で、ある特定の行為の許容やそのルート・区域等の指定を示すもの。



指示の基本様式
中央に白い図記号(又は字句)

❶講習よし
講習指定区域

❷ポールよし
ポール指定区域

❸歩行よし
歩行者指定通路

❹スノーボードよし
スノーボード指定区域

D 注意旗

避けるべき危険の有ることをポール・張縄等に標示し、接近や進入等を制止するもの。

E 救護関係の標示マーク

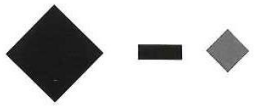
救護施設・救急連絡所・パトロール員等に使用し、施設や係員の明示を図るもの。但し、案内図等で単色標示する場合は、外形を円か四角かで区別する。

❶パトロール
パトロール連絡所

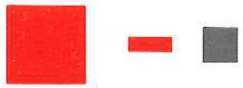
❷救急診療所

F コースの難かしさを表わす色と形

指導標や案内図に用い、コースを選ぶときにヒントを与えることでスキーヤーの安全を図るもの。
通常、色と形を併用した標示を基本とする。
但し、情況に応じて色のみを用いて表す方法と、形のみを用いて表す方法と、その何れの使用も許される。



❶上級コース



❷中級コース

❸初級コース

1．理解しやすくするために、標識に簡潔な字句を加えることが許される。その際、標識の板面内に記入する方法と、補助板に記入して添える方法とがある。
2．情況により、標識の板面中央に記載する図記号を、簡潔な字句に代えることが許される。

(平成3年7月改訂版)

２０１５/２０１６シーズン　スキー場傷害報告書
平成２８年９月発行

発行所　　全国スキー安全対策協議会

《事務局》
〒１１１－００５６
東京都台東区小島２丁目１８番１５号
新御徒町妙見屋ビル３階
一般財団法人 日本鋼索交通協会内
ＴＥＬ　０３－３８６６－３１６３
ＦＡＸ　０３－３８６６－３１６４

http ://www.safety-snow.com
e-mail jass@safety-snow.com

（無断転載禁止）